
逃走中in遊園地

ハリケーン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逃走中in遊園地

【Nコード】

N4392N

【作者名】

ハリケーン

【あらすじ】

マリオ「見ないほうが良いぞ！」

ドゴッ！

作者「ぜひ見てください。」

書くぞー!! b y 作者 (前書き)

作者「書くぜえええええええええええええ!!」

タブー「だまれ」

作者「、、、はい」

書くぞー!! b y 作者

作者「逃走中やるから、スマブラメンバー集合させて♪」

マリオ「やだ」

作者「わかった♪」

完

ルイージ「いや、書けよ!!」

作者「ええー??」

ルイージ「ええー??、、じゃ無いよ! 書かないと僕らの出番無いよ!!」

マリオ「えっマジで?」

ルイージ「当然だよ!!」

作者「じゃあ、お前がスマブラメンバー集めろよ」

類一示「わかったよ、、 っ僕の名前がおかしくなってるし!!」

書くぞー!! b y 作者 (後書き)

マリオ「そういえば、こんな小説が他にあったな、、」

ルイージ「作者さん、もしかして、、」

作者「ギク！」

ルイージ「パクリました？」

作者「、、、、」

ドゴ!

ルイージ「ぐばあ！」

ドサ!

作者「リスペクト!!」

逃走者の紹介

逃走者

計44名

マリオ 誰もが知っているスーパースター 昨日もピーチ姫を助けた

クッパも嫌いだが、ルイージのことはもっと嫌い

金好き 女好き

ルイージ 運悪い 影薄い 可哀想 なツツコミ役

ピーチ キノコ王国のお姫様 クッパにさらわれることが多い

去年は365日の中で3日しかお城にいなかった

昨日もマリオに助けられた

クッパ 毎日のようにピーチ姫をさらう ザ・悪役

自分勝手にも見えるが、部下には優しい

ヨッシー 恐竜 大食いで、生ごみでも何でも食べる

でもない
足はかなり速い マリオと仲良し ルイージとはそんな

ワリオ スマブラメンバーの中で1番下品で傲慢

こう見えて、社長 怪盗でもある

基本、足は遅いが、金が絡むとすごい

ドクターマリオ DXからの参戦

メンバーの中で、ずばぬけて頭が良い

ピット 天使 今回の逃走中では、飛んではいけない

運動神経はきわめて高い

サムス 賞金稼ぎ スマブラメンバーの中で数少ない女性キャラ

幼いころ、リドリーに両親を殺される

ピカチュウとは、大の仲良し

リンク ハイラルの勇者 ゼルダに思いをよせているが、片思い

ガノンドロフとは、因縁の宿敵どうし

ゼルダ ピーチと同じく、お姫様 シークという、裏の顔を持つ

今回の逃走中では、ゼルダで参戦

ガノンドロフ リンクの宿敵 絶大な魔力を持っている

正義感ほぼ0に近く、ミッションもやらないつもり

トゥーンリンク たしか、パラレルワールドのリンク

作者はこいつのことをあまり知らない

子供リンク これまたDXから参戦

トゥーンリンクとの違いがあまりよく分からない

作者はこいつもよく知らない

フォックス スターフォックスのリーダー

見た目は狐だが、意外に頭も良い

ファルコ スターフォックスのパイロット 若干、キザな一面もある

クールで、足も速い ウルフとは仲が悪い

ウルフ その名の通り、狼 スターウルフのリーダー

フォックスやファルコとは敵対している

とくにファルコとは非常に仲が悪い

オリマー メンバーの中で、唯一の既婚者

不時着した「とある星」で、不思議な生き物 ピクミンと出会う

今回のゲームでは、オリマーのみ参戦

カービィ プップランドの住民 超がつくほどの大食い

ゆえに、いつもほかのみんなに迷惑をかけている

足は遅い部類に入る

デデデ プップランドの大王 ワドルディなど、大量の部下を持つ

大王なのに、政治は部下にまかせっきりのダメ大王

しかし、亜空軍襲来の際には、時限的にフィギュアから復活するブローチを開発し、

ルイージやネスにつけるといいう、機転のきくところも見せた

メタナイト プップランドの剣士 カービィのことをライバル視している

スト

自分の戦艦に、自分の顔の艦首をつけるほどのナルシ

今回は飛べないため、きわめて遅い

ロボット 複数のロボットたちのリーダー

頭脳明晰で足も速い カタコトでしゃべる

マルス 作者はよく知らないが、どっかの国の剣士

足は半端無く早い

アイク マルスと同じく、どっかの剣士 足の速さはそこそこ

肉好きで、肉を食う早さなら、ヨッシーにも劣らない

ロイ DXから参戦 髪は赤い マルスと同じく、どっかの剣士

作者はこいつをほとんど知らない

リュカ 不思議な力、P S Iをつかう少年 ものすごく臆病
なにかとネスに頼る

ネス リュカと同じく、P S Iをつかう少年

リュカと真逆の性格で、とっても勇敢

ドンキーコング パワフルなゴリラ 通称ジャングルの王者

何かとマリオと争っている デイーデイーの兄貴分

デイーデイーコング ドンキーコングの弟分 バナナ大好き

必殺技は「ピーナッツポップガン」

アイスクライマー ポポとナナのバカップルコンビ

今回の逃走中では、ばらばらに行動する

ソニック スマブラXには、ゲスト参戦 特徴は、なんと言っても足の速さ

メンバー1の快速で、逃げ切りを目指す

スネーク こちらも、スマブラXには、ゲスト参戦 ソニックのこ
とをあまり良く思っていない

基本的には、ミッションに対して積極的

Mrゲーム&ウォッチ メンバーの中で一番年上

平面で、ペラペラ ロボットと同じくカタコ
トでしゃべる

キャプテン・ファルコン 筋肉質のムキムキレーサー 何に対しても積極的

ソニックについて、2番目に速い

ポケモントレーナー 3匹のポケモンを操るトレーナー

命令ばかりなので、運動神経は悪い

ゼニガメ・フシギソウ・リザードン ポケモントレーナーのポケモン

ない
しかし、ほとんどなついてい

全体的に足は遅い

ピカチュウ ポケモンのなかで1番、人に知られているポケモン

サムスになついている すばしっこい

ピチュー DXから参戦 おそらく最弱 しかし、小さいうえにすばやいので、捕まりにくい

なぜかミュウツーになついている

ルカリオ 波動と呼ばれるパワーをつかうポケモン 別名「波動の勇者」

運動神経はきわめて高い

ミュウツーに対してライバル意識を持っている。

ミュウツー DXから参戦 人工的に作られたポケモン。

足はそこそ速く、ピチューになつかれている

プリン 丸っこいポケモン 歌が大好きでいつも歌っている

足は遅く、ピチューの次に弱い

逃走者の紹介（後書き）

ルイージ「1行なの、僕だけじゃん、、」

作者「ルイージクオリティだな」

ルイージ「何だよそのクオリティ、、いらないよ、、」

作者「いや、いるよ」

ルイージ「いらないよ」

作者「いるよ」

いらないよ！ いるよ！ いらないよ！ いるよ！ いらないよ！

タブー「黙れ」

ルイージ&作者「ごめんなさい（土下座）」

エリア紹介（前書き）

ああ、、、夏休みが終わる、、、

エリア紹介

作者「OK! OK! そんな感じでいいよ!」

マスターハンド「ったく! いくら、創造神だからってエリア作らせるなよ!」

作者「よし、OK!!」

マスターハンド「聞いてねえし、、、」

エリアは、とある遊園地（という設定）

広さは、東京ドーム12個分（逃走者が多いため広くしました）

アトラクションがたちならぶ、「アトラクションエリア」と、

ショップやレストラン、ゲームコーナーがある、「建物エリア」に分かれる

逃走者はこのエリアを、150分間逃げ回る

賞金は、1秒200円 逃走成功で、180万円を獲得できる

また、このゲームは自首も可能 エリア中央にあるインフォメー

シヨンに行き、

自首契約書にスタンプをもらえば、自首成立

それまでの賞金から、自首手続き料金20万円を引いた額の賞金が手に入る。

しかし、自首をすれば、ハンターが1体追加

他の逃走者に対する、裏切り行為となる

エリア紹介（後書き）

クレイジーハンド「エリア壊しても良い？」

作者「絶対に駄目！」

オープニングゲーム1（前書き）

疲れた、、

オープニングゲーム1

マリオ「うわ！　すごい遊園地だなー！」

カービィ「すごく、広そう、、」

フォックス「そろそろ、始まるぞ、、」

トウーンリンク「怖いよ、、」

ナレーション「これより、ゲームを始める。」

アイク「ついに始まるな」

ピカチュウ「楽しみピカ！」

ナレーション「君たちの目の前にある4つのBOXには、ハンターが閉じ込められている。

今から、逃走者は、順番に前に出て鎖を引かなくてはならない。

目の前の、色分けされた鎖は、全部で44本。

そのうち1つだけが、BOXの扉を開放するはずれの鎖。

はずれの鎖が引かれた瞬間、4体のハンターが放出され、

ゲームがスタートする。」

メタナイト「何だって？」

デデデ「聞いてないぞい！」

口々に文句を言う逃走者たち、

逃走者の位置からBOXまでの距離は、およそ35m。

これから逃走者はくじを引き、その順番で鎖を引く。

誰かがはずれを引けば、ハンターが放出され、ゲームがスタートする。

どの鎖がはずれかはもちろん逃走者には伝えられていない。運まかせだ。

そして、くじ引きが始まった、

ルイージ「12番だ、、やばいかも、、」

ソニック「24番か、、どうだろうな、、」

マリオ「ええー？ 嘘でしょ？ 1番かよ、、」

ワリオ「おおー！ 44番だ！！ ついてるな！！」

ドクターマリオ「2番だ！ 良い番号じゃない？」

次回、オープニングゲームがスタート！

オープニングゲーム1（後書き）

マリオ「今回は、誰も鎖引かないのか？」

作者「いいじゃん。次回でも。」

ルイージ「テキトーだな、」

オープニングゲーム2（前書き）

作者「ルイージ引けー、ルイージ引けー」

ルイージ「いやいや、引かないよ」

マリオ「ええー！！マジで！！？」

ルイージ「、、、、兄さんは僕が嫌いなのか？」

マリオ「うん！（満面の笑み）」

ルイージ「マジかよ、、、、」

オープニングゲーム2

オープニングゲームが始まった、、

1番手は、、我がヒーロー マリオ

誰もが認めるスーパーヒーローの運が試される、、

ヨッシー「どの色を引きますか？」

マリオ「、、そうだな」

トップのプレッシャーで、なかなか鎖を選べない、、

マリオ「うわー、どうしようかなー、、」

ヒーローにとっても、ハンターは脅威の存在のようだ、、

マリオ「よし！決めたぞー！」

ルイージ「何色？」

マリオ「、、、、、、」

ヨッシー「何色ですか？」

マリオ「俺の色の、赤を引くぜー！」

ルイージ「無視された！」

マリオ「引くぞ！」

マリオとハンターの距離は、およそ2m。
よってはずれの鎖を引けば、逃げ切るのは非常に困難となる。

マリオ「いくぞ！」

クリアか、、、

ハンター放出か、、、

マリオ「オラ！」

シーン、、、

セーフ、、、、

マリオ「よっしゃ！」

マリオはセーフだったため、遠くからスタートできる、、

マリオ「それにしても、すごいなこの遊園地」

かなり広いエリアに驚くマリオ、、

マリオ「まあ、逃げやすいしいいか、、」

次に鎖を引くのは、ドクターマリオ

きわめて知能が高いドクターマリオだが、
このゲームにおいて必要とされるのは運だ、、

ドクター「楽勝でしょ」

余裕のドクター

ドクター「2番目で引くなんてそんな運悪いのはルイージだけです
よ、、」

ルイージ「大きなお世話だ!!」

ドクター「、、よし！無難にオレンジでいきます！」

クリアか、、

ハンター放出か、、

ドクター「とう！」

シーン、、

セーフ、、、、

ドクター「よし！」

続いて、ヨッシーが緑を引いてクリア。

ゼルダが銀色を引いてクリア。

Mrゲーム&ウオッチが黒を引いてクリアとなった。

次に引くのは、ガノンドロフ、、、

ガノン「では、、、紫を引くか、、、」

クリアか、、、

ハンター放出か、、、

ガノン「どりゃあああああああ!!」

シーン、、、

セーフ、、、、

しかし、ガノンドロフが引いた鎖の先に、黒いカードが貼り付けられていた、、、

オープニングゲーム2（後書き）

作者「鎖の先のカードの意味はいつたい何なのか！

そしてルイージは期待通りに捕まるのか？

次回をお楽しみに！」

ルイージ「絶対捕まらないよ!!！」

ゼルダ「それにしても、、、

オープニングに何話使ってたか、、、」

作者「、、、すいません」

マリオ「ギャグもルイージいじりだけだし、、、」

作者「、、、ごめん」

ルイージ「ほんとだよ！」

作者&マリオ&ゼルダ「黙れ!!！」

ルイージ「うそーん！」

オープニングゲーム3（前書き）

黒いカードの秘密が明らかに！

オープニングゲーム3

ガノン「セーフだったのはいいが、、何だこれは？」

ルイージ「嫌な予感がする、、」

ロボット「何か書いてありませんか？」

ガノン「何々？、、イベントカードと書かれているぞ！」

アイク「何じゃそりゃ？」

作者「説明しよう！」

ルイージ「うわっっ！！」

作者「そんなに驚くなよー」

ルイージ「普通驚くわっ！」

作者「いいか？ 44本の鎖のうち9本に、そのイベントカードがついていて、

誰かがカードのついた鎖を引けば、

カードに書かれているイベントが起きるというシステムだ。」

ワリオ「そんなこと一言も聞いてないぞっ！」

作者「先に言ってしまったら俺の出番が無くなるだろ！」

ルイージ「そんな理不尽な、」

作者「だまらっしゃい！」

リュカ「それで、イベントって何なの？」

作者「それはカードに書いてあるぞ」

ルイージ「えーと、『ハンターとの距離が10m縮む』
って嘘で
しょ？」

クッパ「捕まりやすくなってしまった！」

ガノン「大変だな、お前ら」

子供リンク「お前が引いたんだろ！」

ガノン「じゃっ頑張れよー」

ルイージ「くそー」

作者「じゃっ次の奴はとっと引いてね！」

ピチュー「あっ僕だ！」

7番目は、ピチュー

ピチュー「えっと、、ベージュで！」

ミュウツー「なぜだ！」

ピチュー「、、何かっこいいから！」

クリアか、、

ハンター放出か、、

ピチュー「ぴちゅっ！」

シーン、、

セーフ、、、

続いて、ミュウツー、子供リンク、リュカ、ネスがクリアした

しかし、ネスがカードを引き、また10mハンターと近づいた。

ネス「うわーごめんっ！」

次は、ルイージ、、、

ルイージ「緑を引きます。」

クリアか、、、

ハンター放出か、、、

ルイージ「エイッ！」

シーン、、、

セーフ、、、

ルイージ「あっ！カードだ！」

ソニック「もうひどいのはごめんだぜ！」

ルイージ「えーと、『マスターハンド登場』だって、、、」

ワリオ「なんだそれ、、、」

マスターハンド「こういうことだ、、、」

現れたマスターハンドの手には6つの宝箱、、、

マスターハンド「おりゃ！」

ルイージ「あっ！投げた」

マスターハンド「ゲームを有利にしたければ拾うんだな。」

マスターは帰った。

クッパ「あいつの出番少なかったな、、、」

次に鎖を引くのは、ロイだ、、、

ロイ「希望の色の金色で！」

ワリオ「あ？金色は金の色だろ？」

金のことしか、頭に無い男、、、

ロイ「いきます！」

クリアか、、

ハンター放出か、、、、

ロイ「えい！」

がこっ！

ロイ「最悪だー！」

ゲームが、始まった。

ハンターが視界に捕えたのは、、

やはりロイだ、、

ロイ「くそおおお！」

絶体絶命のロイが何かを見つけた、、

ロイ「あれは、、宝箱だ！」

宝箱を拾うロイ、、

ロイ「たのむぞ、、、」

宝箱を開けたロイ、、
その中には、、

『双眼鏡』・・・50倍ズーム機能でばっちり見えます♪

ロイ「、、、」

ロイは、、、灰になった、、、

ぽんっ！

ロイ確保 残り43名

ロイ「、、、うそだろ」

ゲームが、、、始まった、、、

オープニングゲーム3（後書き）

次回から本格的に始まります！

ロイ「、、、、」

マリオ「ルイージみたいだな」

全員「確かに」

ゲームスタート! (前書き)

作者「眠い、、」

ルイージ「我慢しなよ、、」

作者「、、、、誰？」

ルイージ「ええー？」

ゲームスタート!

マリオ「始まったな、、」

ルイージ「しかし、すごいな、、この遊園地」

ドンキー「広いなー」

エリアの広さに驚く逃走者たち

ファルコ「とりあえず、誰かと合流したいな、、」

ファルコは、他の逃走者を探す。

スネーク「ハンターも気になるが、今はアイテムを探さないとな。」

スネークは、アイテムを探すようだ、、

プリン「あっ!あれアイテムじゃない?」

早速アイテムを見つけたプリン、、

プリン「あれ、空だ、、」

プリンが見つけたのは、先ほどロイが見つけた宝箱
中身は取り出されている、、

プリン「ん？何か落ちてる、、」

ロイが見つけた双眼鏡だ、、

プリン「何々？『50倍ズームで、』

ってハンターきたあああああ！！」

ハンターはプリンとの距離を徐々に近づめていく、、

プリン「やめて！ 双眼鏡あげますから！」

しかし、ハンターがつられるわけもなく、、

プリン「うわあああ！！」

ポン！！

捕まった、、

プリン「双眼鏡あげるって言ったじゃない」

プリン確保 残り42人

マリオ「プリンが捕まった、、」

ルイージ「早くも捕まったな、、」

そのころ、エリア内にマスターハンドと作者が現れた、、

マスター「で、何体ぐらいにしとく？」

作者「14体でお願い。」

マスター「よし、OK、OK。」

マスターハンドと作者は何をたくらんでいるのか？

次回へ続く、、

ゲームスタート! (後書き)

今回短くてすいません。

眠すぎ、、、、、

ミッション1(前書き)

作者「よし、完璧。」

逃走者にメールを出すぞー」

ミッション1

プルルル、、プルルル、、

逃走者に1通のメールが届いた、、

マリオ「ミッション1」

ルイージ「きたな、ミッション」

フォックス「エリアに14台のBOXを設置した。」

スネーク「BOXには1体ずつハンターが閉じ込められており、

残り130分にハンターを放出する。」

クッパ「阻止するには、残り130分までに

BOXについているボタンを押し、」

ガノン「BOXを凍結しなくてはならない。」

ロボット「しかし、ボタンの数が複数だった場合、

それらを同時に押さなくてはならない。」

リンク「なお、BOXの位置とについているボタンの数は、

インフォメーションにある「園内マップ」に書かれている。

」

リユカ「ええー？」

ゼルダ「まずいわね、、、」

ミッション1 《ハンターBOXを凍結せよ》

現在、エリア内の14箇所にBOXを1台ずつ設置した。

BOXには、ハンターが1体ずつ閉じ込められており、

残り130分になるとハンターを放出する。

阻止するには、BOXについているボタンをすべて同時に押し、

BOXを冷凍しなくてはならない

BOXの位置とボタンの数は、エリア中央にある「インフォメーション」で

「園内マップ」を手に入れるしかない。

スネーク「BOXは見つからないが宝箱が見つかったぞ、、、」

スネークは宝箱を開ける。中に入っていたのは、、、

「トリモチ弾」…………ハンターに当てると、1分間動きが止まるよ♪

スネーク「良いアイテムを手に入れたな！」

ご機嫌のスネーク、、、

マリオ「一体も放出はさせないぜ！」

完全ミッションクリアを宣言したマリオ、、、

しかし、、、遠くにハンターを見つけた、、、

マリオ「うわ、あれそうだな、怖っ！」

ハンターは遠くに行った、、、

どうやら、気づいていないようだ

マリオ「あのさ、やっぱ全部は無理だわ、、、」

早くも、宣言を撤回した、、、

残り144分

ハンター放出を阻止できるのか!!

ミッション1(後書き)

ドンキー「あつミッション来てる！」

全員「遅！」

動き始める逃走者たち（前書き）

ミッションをクリアする者は

現れるのか？

動き始める逃走者たち

現在14台全部のBOXが残っている。

このままでは、残り130分にハンターが放出され、

その数は、18体となる。

ルイージ「よし！みんなに馬鹿にされないためにもやろう！」

ルイージは、参加を決意した。

ルイージ「とりあえず誰かと合流したほうがいいな、、」

BOXを冷凍するボタンは1個とは限らない。

つまり、BOXを発見しても1人では止められないこともある。

デデデ「おっ！インフォメーションがすぐそこぞい！」

アイク「デデデがいる、、」

偶然、インフォメーションの近くにいた、アイクとデデデ、、

「園内マップ」を獲得した、、

デデデ「このマップによると、すぐそこに2つあるぞい」

アイク「しかも、両方ボタンは一個だ!」

デデデ「だったら、、」

デデデが作戦を立てた、、

その作戦とは、、

デデデ「我輩とお前で、手分けして2個をとめるぞい!」

アイク「それはいいな!」

デデデ「その後、大観覧車の前にあるBOXの所で集合するぞい!」

アイク「で、そのBOXを二人で止めるってわけだな!」

デデデ「そういうことぞい!」

意外にも頭のきれるデデデ、、、

作戦はうまくいくのか、、、

ファルコ「お！BOXだ！」

運よく、BOXを見つけたファルコ、、、

しかし、、、

ファルコ「なっ！？ ボタンが2個ついてやる！」

ボタンが複数の場合、1人で凍結するのは困難だ、、、

ファルコ「電話するか、、、 もしもし？」

電話の相手は、、、

フォックス「ファルコか、、、どうした？」

フォックスだ、、、

ファルコ「『モンスターハウス』の近くにBOXがあるんだが、

ボタンが2個ついてて、もう1人いないといけないんだ
よ、、、」

フォックス「マジか？」

その姿を、ハンターが捉えた、、、

見つけたのは、、、

フォックス「じゃあ、俺が今から、つてうわ!!」

フォックスだ、、

スターフォックスのリーダー、フォックス、、

逃げ切れるのか？

フォックス「やっべえええええ！」

ハンターは徐々にその距離を縮めていく、、

フォックス「ぐわあああああああ!!」

ポン!

フォックス確保 残り41名

フォックス「最悪だ、、、こんな早くに、、、」

確保情報はメールで知らされる、、、

マリオ「『スペースシップ』付近にて、フォックス確保

残り41名」

ドンキー「やばっ」

ファルコ「マジか、、、」

呼ぼうとしていたフォックスが捕まり、

ファルコのもとに向かう者はいなくなった、、、

ファルコ「こうなったら、、、不本意だがあいつを呼ぶか、、、」

ファルコの電話の相手は、、、

ウルフ「ああ？何のようだ、、、」

ウルフだ、、、

ファルコはさっそく事情を説明する、、、

ウルフ「やだね、、、

と言いたい所だが、、、

ハンターを増やさないためだからな、、、

いいだろう」

フォックスに変わって今度はウルフがファルコのもとに向かう

アイク「あった、あった」

BOXの前に来たアイク、、

アイク「ボタンは1個だな、、よし！」

アイク「おりゃあ！」

プシュー！！

BOX冷凍 残り13台

アイク「よし！」

続いてデデデも、、

デデデ「えい！」

プシュー！！

BOX冷凍 残り12台

デデデ「今回の逃走中でヒーローになってやるぞい！」

マリオ「これがマップか、ゝゝ」

マリオも、「園内マップ」を獲得した。

マリオ「やるぞ！」

動き始める逃走者たち（後書き）

疲れた、、、、

ハンター凍結へ、、、(前書き)

ルイージ「活躍するぞ！」

作者「あつ、今回はルイージの出番無いよ」

ルイージ「、、、」

ハンター凍結へ、、

現在、凍結されているBOXは2個。

残るBOXは12個。

凍結できるのか？

アイク「遅いぞデデデ！」

デデデ「自慢じゃないが我輩は足がかなり遅いんだデ！」

アイク「いばっていることか！」

デデデとアイクは作戦通り合流した。

デデデ「BOXはどこにあるぞい？」

アイク「あそこだ」

アイクが指を差した先にはBOXが設置されている。

デデデ「いくぞい！」

アイク「おう！」

デデデ&アイク「せーの、、、」

ぽちっ！

3個目のBOXが凍結されて、残るBOX は11個となった。

デデデ「次、むかうぞい！」

・・・・・・・・・・・・・・・・

ファルコ「遅い、、、」

いらつくファルコ、、

そこに、、、

ウルフ「おい、どこだBOXってのは」

ファルコ「やっときたか、、」

これだよこれ、、」

ウルフ「お前とだけはしたくなかったが、、」

ファルコ「そんなの、俺だって同じだ！

だが、仕方ないだろう」

ウルフ「、、、そうだな。

よし、とつとと押すぞ」

ファルコ「いわれなくても！」

ぽちっ！

ウルフ「じゃあな！ くそ鳥」

ファルコ「2度とくんなよ、かませ犬」

ウルフ「何だと？」

ファルコ「ああ、かませ狼だったか？」

ウルフ「ふん！誰がてめえのところに戻ってくるか！」

その場を去るウルフ、、

しかし、、

ファルコ「おい、何で戻ってきたんだよ」

ウルフ「ハンターがいた、、」

ファルコ「はあ？何、来てんだてめえ！」

ウルフ「だいじょうぶだ、、ハンターは来てない」

ファルコ「そうか、、っておい！」

ウルフ「(ダッシュ)！！」

ファルコ「もろにつれてきてるじゃねえか！」

ウルフ「ははははは！騙されるほうが悪い！」

ハンターの標的は、、、

ファルコ「くそっ！」

ファルコだ、、、

ファルコ「このやろう！」

しかし、ファルコは曲がり角を利用してハンターの視界から消えた、
、

ハンター「！！」

ハンターが、次の獲物を視界に捕えた、、

ウルフ「おお!？」

ウルフだ、

ウルフ「うわあああああ!！」

ぽんっ!

ウルフ確保 残り40人

ウルフ「、、、クソッ！」

人をおとりにしようとした罰だ、

現在、4個のBOXが凍結された、、

ハンター放出まで後7分

間に合うのか？

ハンター凍結へ、、、（後書き）

明日から3日間

学校で、「study camp」という勉強合宿が行われます、
、、

なので、その間は続きを書くことができません、、

申し訳ないです、、、

なんだよ、、、「study camp」って、、、

英語にして気取りやがって、、、

キャンプなら遊べよ、、、

ああ、泣きそう、、、、、、

やっと僕の出番だ！byルイージ（前書き）

やっと、合宿が終わりました。

書くぞー！

やっと僕の出番だ！byルイージ

作者「さて、何体凍結できるかな、、、」

マスターハンド「さあな、、、」

.....

ルイージ「あれ？兄さん！！」

マリオ「チッ！」

ルイージ「なんで舌打ち！？」

マリオ「まあいい、とりあえずハンター凍結が先だからな、、、」

マリオは、「園内マップ」を持っているため、

BOXの位置とボタンの数が分かる、、、

マリオ「とりあえず、、、建物の中に6個あるから、

そこを止めにいこう。」

ルイージ「でも、ボタンが3つの奴もあるよ、、」

マリオ「それは後回しにして、後から、もう一人呼べばいいだろ」

ルイージ「そうだね」

積極的にミッションに挑む、

マリオブラザーズ、、、、

ルイージ「みんなのために頑張ります。」

他の逃走者のためにミッションに挑むルイージ

さすがにできた弟だ、、

それに対し兄は、、

マリオ「ハンター増えると逃げ切りづらくなるし、、

金がない、、、、」

私利私欲だ、
、
、

やっと僕の出番だ！byルイージ（後書き）

今日から再び頑張ります！

ミッション1終了間近（前書き）

マリオ「ぜったいに、凍結してやる！」

ルイージ「みんなのために！！」

マリオ「金のために！！！」

ルイージ「・・・」

ミッション1終了間近

作者「あと5分しかないのに、10体も残ってる、、」

マスターハンド「まずいかもな、、」

作者「まあ、マリオと緑の変な奴が何とかしてくれるだろう」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ルイージ「いや、ルイージだよ！」

マリオ「ん？ 何叫んでるんだよ、ルイージ」

ルイージ「何か今、緑の変な奴と呼ばれた気が、、」

マリオ「お前、被害妄想強すぎだろ、、」

ルイージ「そうなのかな、、」

マリオ「それよりあれだろ、BOXって」

マリオがみつけたのは、ハンターBOXだ、、

ルイージ「よし、とめよう」

マリオ「せーの」

ポチッ！

マリオ「次いくぞ」

ルイージ「うん！」

・・・・・・・・・・・・・・・・

デデデ「見つけたぞい」

デデデがBOXを見つけた、、

アイク「よし、止めよう！」

デデデ「せーの」

ポチッ！

デデデ「よし、っ、っ、ってうわ！」

アイク「嘘だろ！？」

ハンターに見つかった、っ、

デデデ「こっちに逃げるぞい！」

デデデは、わき道に逃げ込む、っ、

ハンターが視界に捕えたのは、っ、

アイク「うわー！」

アイクだ、、

アイク「こっちに逃げよう！」

アイクが逃げ込んだのは、庭園迷路だ、、

迷路を利用して、、ハンターの視界から消えた、、

アイク「あぶねえ、、」

そのアイクの先に人影が、、

アイク「うお！」

ポポ&ナナ「うわ！」

アイスクライマーの二人だ、、

アイク「おまえら、二人で行動してんのか？」

ポポ「もちろん！」

仲の良い2人、、

行動をともにしている、、

ナナ「アイクさん、ミッションって行きました？」

アイク「ああ」

ポポ「ええ！？」

ナナ「すごい！」

アイク「おお、、そうか？」

話の弾む3人に近づく、黒い影、、

ポポ「どれぐらいやりました？」

アイク「デデデの分も合わせると、、4つかな」

ナナ「すごい！」

ハンター「！！」

ポポ&ナナ&アイク「！！」

鉢合わせた、、

ポン！

捕まったのは、、

ポポ「最悪だー！！」

ポポだ、、、

ポポ確保 残り39名

なおも、執拗に2人を追うハンター

アイクとナナは別の方向に逃げる、、、

ハンターが追ったのは、、、

ナナ「わたしー!?!」

ナナだ、、、

ナナ「げふっ」

ドテッ！

こけた、、、

ナナ「やめてー！」

ポン！

ナナ確保 残り38名

ナナ「捕まった、、、」

アイスクライマーの2人、、、

仲良く、牢獄行きだ、、、

デデデ「アイクとはぐれたで、、」

アイク「ぜえ、、逃げたはいいけど、、

ぜえ、、デデデとはぐれた、、」

はぐれてしまった、アイクとデデデ、、

アイク「ぜえ、、ぜえ、、」

アイクは、もう限界のようだ、、

アイク「これだけ止めたしいいだろ、、

いかない!!」

アイクはあきらめた、、

マリオ「よしっあれだ！」

ルイージ「せーの」

ポチッ！

マリオ「次だ！」

こちらは順調だ、

ルイージ「兄さん、あれ！」

マリオ「よしっ！」

ポチッ！

次々に凍結させていく、マリオブラザーズ

マリオ「賞金のためだ、頑張ろう！」

すべては、、金のために、、

ファルコ「見つけたぞ、、」

積極的にミッションに参加しているファルコ、、

BOXを見つけた、、

ファルコ「ボタンは、1個だ！」

ポチッ！

ファルコ「あと一個見つからないか、、」

.....

ガノン「ん？これか、、」

BOXを見つけたガノンドロフ、、

だが、、ボタンの数は、、

ガノン「さっ3個だと!？」

凍結させるにはあと2人必要だ、、

ガノン「待つか、、」

あと、BOXは5個

ハンター放出を阻止できるのか？

ミッション1終了間近（後書き）

アイスクライマー「最悪、、、」

作者「確保まで同じとは流石だな、、、」

ルイージ「ただ単に一緒にいたからでしょ？」

マリオ「ごめん、静かにして

今、テレビ見てるから、、、」

ルイージ「、、、うん。」

ミッション1終了(前書き)

ミッション終了まで、残り3分

残るBOXは、5個

間に合うのか!?

ミッション1終了

マリオ「もう少して次のところに着くぞ！」

ルイージ「頑張るぞ！」

ファルコ「BOXどこだよ、、、」

デデデ「急ぐぞい！」

ガノン「誰か来ないのか、、、」

現在、ミッションに挑んでいるのは、

マリオ、ルイージ、ファルコ、デデデ、ガノンドロフの5人

間に合うのか！？

ファルコ「見つけた！」

BOXを見つけたファルコ、、、

しかし、、

ファルコ「また、ボタン2つかよ、、、」

凍結できない、、、

ファルコ「参ったな、、、」

そこに、1人の男が現れた、、、

ファルコン「おい！どうした、ファルコ？」

キャプテン・ファルコンだ、

ファルコ「ナイスだ！BOXを凍結させるぞ！」

ファルコン「これか、、、よし！」

ファルコ「せーの、、、」

ポチッ！

ファルコ「よし！」

ファルコン「ん？あれはまさか！！」

ファルコンが見つけたもの、、、

それは、、、

ハンター「！！」

ハンターだ、、、

ファルコン「くそ！」

ファルコ「まじか、、、」

ハンターが視界にとらえたのは、、、

ファルコ「こっちかよ!」

ファルコだ、、、

ファルコ「まずい、、、足が重い、、、」

これまで果敢にミッションに挑んできたファルコ

そうとう、疲れているようだ、、、

ファルコ「あっ!」

ファルコが見つけたものは宝箱

中身しだいでは、助かる可能性もある。

中には、、、

『超高性能レーザーR12』……………使用すると一回だけ、当たったハンターを

ゲームから除外できる♪

ファルコ「天は俺に味方したぜ、、、くらえ!!」

バキューン!!

ハンター消滅 残り3体

デデデ「メールだぞい」

ゼルダ「ファルコがレーザー銃を使ったため、ハンター一体消滅」

ドンキー「マジか！」

ピット「ラッキーだね、」

オリマー「さすがファルコさん、」

ファルコ「はあ、、はあ、、、、」

ファルコの視界の先に、ガノンドロフ、、

ガノン「おつ、ちょうどよかった。

今、これを止められなくて困ってたんだ、、」

ガノン「もう少し待とう、、」

このまま、誰も来なければ2人は格好の的となる。

ガノン「あと、30秒、、」

ファルコ「誰か来てくれ、、」

そこに、誰かがやってきた、、

デデデ「いまいくぞい！」

ヒーローになりたい男、

デデデだ、、

ガノン「あと15秒、、」

ファルコ「急げ！」

デデデ「はあはあ、、、」

足の遅いデデデ、、

間に合うのか、、

デデデ「着いたデ！」

ガノン「あと5秒だ！」

ファルコ「せーの、、」

ポチッ！

デデデ「セーフ」

プシュー！！

ハンター2体放出 計5体

残る逃走者は、38名

逃げ切れるか！？

ミッション1終了（後書き）

作者「思った以上に頑張るな、、」

ルイージ「当然！」

作者「帰れ」

ルイージ「、、、、」

ハンターの恐怖（前書き）

ハンターのは数は、5体。

38人の逃走者たちは、逃げ切れるのか？

ハンターの恐怖

マスター「さて、逃走者は頑張ってるかな？」

作者「金がかかっているからにはやるだろ、、」

マスター「そうだな、、」

作者「それはそうと、次の用意をしないと、、」

.....

マリオ「ハンター5体は多いな、、」

ルイージ「やばいね、、」

ハンターにおびえる2人に近づく、黒い影、、、、

ウオッチ「あ、マリオさんと、、、、どなた？」

ルイージ「ルイージだよ！」

ウオッチ「あ、そうそう、ルーカスさん。」

ルイージ「、、、、、、、、、、」

Mrゲーム&ウォッチだ、、、

マリオ「今いるところは、、、

『土壌掘いコーナー』だな、、、」

ルイージ「つまらなそう！」

そこに近づく、黒い影、、、

ハンター「！！」

見つけた、、、

マリオ「インフォメーションより、人気がいらないぞ」

ルイージ「つまらない！それはつまらない！」

ウオッチ「すごいアトラクションで、、うわ！」

マリオ「チッ！」

ルイージ「嘘でしょ！」

固まって逃げる三人、、

その先に、、

ガノン「ハンターどこだ？」

ファルコ「何か来てるぞ！」

デデデ「マリオ、どうしたデ？」

先ほどミッションに貢献した三人だ、、

マリオ「ハンターが来てる！」

ファルコ「くそ！」

ガノン「くっ！」

デデデ「よっ とっ！」

デデデはその場に見を隠す、

ハンター「たっ たっ たっ た」

通り過ぎた、

デデデ「セーフ」

ハンターが視界に捕えたのは、

ガノン「うわー！」

ガノンだ、ゝ、

ガノン「やめろー！」

ポン！

ガノン「くそっ！」

ガノンドロフ確保 残り37人

ガノン「終わりかー？」

ルイージ「やばかった、ゝ、」

ウオッチ「たすかったー」

他は助かったようだ、

そのころ作者は、、、

作者「もうそろそろ頃合だな、」

マスター「大丈夫か？下手なこととしてアイツが目覚めたらえらいことだぞ、、」

作者「大丈夫だよ、、アイツはお前とクレイジーで封印してるんだろ？」

マスター「そうだな、、」

作者「放つぞ！」

作者がエリアに放ったものは、、

ガレオム「出番だー！」

リドリー「暴れるぜー！」

ボスパックン「がははは、、、」

レックウザ「おりゃー！」

デュオン「いくぞー」

ポーキー「はははは、、、」

今までのボスたち、、、

そのころ、、、

クレイジー「おうおう、俺に黙ってこんな面白そうなことやりやがって、、、」

まってるよ、、、」

ハンターの恐怖（後書き）

更新が遅れてしまって、本当に

申し訳ありませんでしたあああああああああ！！（土下座）

これからも、遅れるとは思いますが、

応援よろしく願います。

ミッション2 (前書き)

現在、残り時間126分

逃走者は37人、、、

ミッション2

ルイージ「とりあえず、ミッションも終わったし、

一段落だね、、、

って、うわ！　なんだなんだ？」

彼が見たのは、、、

レックウザ「がはははは、、、、、、、」

レックウザだ、、、

ルイージ「何で？」

マリオ「うわ！ボスパックンだ！」

リュカ「ポーキーが、、、何で？」

ファルコ「リドリ、、、、」

逃走者が見つけたのは、過去に彼らを苦しめたボスたち。

リドリ「ふふふ、、あと350m」

ガレオム「あと、400m」

彼らが向かう先は、、

冷凍ハンター「・・・・・・・・・・・・・・・・」

再びエリアに設置されたのは、、

冷凍ハンター、、、、

その数、、、、18体、、、、

プルルル・・・プルルル・・・

ドンキー「メールだ、、、、」

ドクター「ミッション2、、、、」

ゼルダ「もう？」

カービィ「現在、エリアに6体のボスが放たれた。」

デデデ「彼らは、それぞれ別のBOXにむかっている。」

ピット「1つのBOXには、3体のハンターが閉じ込められている。」

サムス「残り115分になると、リドリーとデュオン、

残り112分になると、ガレオムとレックウザ、

残り110分になると、ポーキーとボスパックンが到着。

ハンターを放出する。」

ロボット「彼らを倒す方法は、クレープショップでくつろいでいる、

マスターハンドに聞きたまえ。

って、何くつろいでるんですか!」

アイク「また、ハンターBOXの位置は、先ほど使った、

園内マップに映し出される。

って、え? 本当だ!」

マリオ「ハイテクだ、」

はたして、ミッションを行うものは、、、?

マリオ「また、凍結ハンター?」

アイク「疲れてんだよね、、、」

園内マップを持っている二人、、

マリオ「ルイージに行かせる、、」

人任せの、、、ヒーロー、、、

アイク「電話だ、、、もしもし、、、」

相手は、、、

デデデ「アイク、いくデ！」

ヒーローになりたい男、、、

デデデだ、、、

アイク「、、、、、、、」

デデデ「いくデ！」

アイク「、、、わかった」

しぶしぶ、ミッションを行う決意をしたアイク、、

ルイーダ「よし、へたれキャラ卒業のためにもやろう！」

マリオ「その意気だ！」

はたして、ミッションの結果はどうなるのか？

ミッション2 (後書き)

ルイージ「兄さんは？」

マリオ「行かない！」

マスターのもとへ、、、
(前書き)

残り時間123分、、、

逃走者は37人、、、

マスターのもとへ、、

デデデ「マスターに会いに行くデ！」

ミッションに積極的なデデデ、、

マスターのもとへ急ぐ、、

アイク「呼び出された、、、、最悪だよ、、、、」

デデデに呼び出されて不機嫌なアイク、、

アイク「行くか、、、、」

しぶしぶながら、向かう、、

ルイージ「行こう！」

ファルコン「行くか！」

ソニック「よし、近いぞ！」

リュカ「これ以上来たら、もう終わりだし、、」

ミッションに行く気のある者は

デデデ、アイク、ルイージ、ファルコン、ソニック、リュカの6人

間に合うか？

ピチュー「迷った、、」

道に迷った、、ピチュー、、

その近くに、、

マスター「クレープ、うめー！」

マスターハンド、、

ピチュー「あれ、マスターだ！」

気づいた、、

マスター「チョコバナナとストロベリーファンタジー1つずつ！」

ピチュー「マスター！！」

マスター「あと、抹茶のささやきとメロメロメロン！」

ピチュー「注文してる暇ないよ！」

マスター「あと、うるさい黄ネズミ！」

ピチュー「それ、僕の悪口だろ！」

店員「ごめん、待った？ クレープだよー！」

ピチュー「店員のノリが軽いし！」

店員「はい、チョコバナナとうるさい黄ネズミだよ」

ピチュー「本当にあったの!？」

マスター「なんだよ、、」

ピチュー「ボス、どうやったら止まるの？」

マスター「『アリエネークレープ』1つ！」

ピチュー「聞けよ!」

マスター「まあ、落ち着け」

店員「はい、『アリエネークレープ』とうるさい黄ネズミだよ」

ピチュー「また来た!うるさい黄ネズミ!」

マスター「いいか、『アリエネークレープ』は、

アリエネーぐらいにうまいんだ、、」

ピチュー「へえ、、」

マスター「そして、食べるとあまりのうまさに、、」

ピチュー「止まるんだね？」

マスター「ううん、破裂する」

ピチュー「破裂!!?!」

マスター「よし、もってけ泥棒！」

ピチュー『アリエネークレープ』獲得

ピチュー「ありがと、、、って何で6個も？」

マスター「え？俺もう帰るし、、、」

ピチュー「嘘？ってことは、僕1人でやんなきゃいけないの？」

マスター「誰かに頼め泥棒！」

ピチュー「泥棒じゃないよ！」

マスター「じゃっ！（ダッシュ）」

店員「あ、金払え泥棒！（怒）」

ピチュー「マスターのほうが泥棒じゃないか！」

残り120分 残り37人

ハンター5体、、、

協力、、そして破裂（前書き）

ピチュー「だれかー!!」

作者「何？」

ピチュー「お前は来なくていいよ！」

協力、、、そして破裂

残り110分、、、

ハンター5体、、、

残り37人、、、

ハンター6体放出まであと5分、、、

作者「果たして間に合うのか!!」

マスター「うるさい、、、」

作者「ヘイ!」

マスター「テンション高すぎ、、、」

現在『アリエネークレープ』を所持しているのはピチューのみ、、、

ピチュー「だれか、、、」

他の逃走者に助けを求めるピチュー、、

ピチュー「そうだ！電話電話、、」

???「もしもし、、」

電話の相手は、、

ピチュー「ちょっといい？」

ミュウツー「どうした？」

ミュウツーだ、、

ピチュー「今さ、僕、ボスを止める道具貰ったんだけど、

6体分全部貰っちゃって、、」

ミュウツー「よし、むかおう！」

ピチュー「おお、話の飲み込みが早い！

でも、助かる！！」

ミュウツーも、、、ミッションに向かう、、、

ミュウツー「近いぞ、、、」

ピチューの元へ急ぐ、、、

ピチュー「だれか、、、だれか、、、」

ピチューの元に、、、

デデデ「あれ、、、マスターがない、、、

あ、ピチュー！！」

デデデだ、、、

ピチュー「あ、デデデ！」

この『アリエネークレープ』を！！」

デデデ「なにそれ、、、、」

ピチュー「これをボスに食べさせれば、、」

デデデ「止まるのかデ？」

ピチュー「いや、、、、」

デデデ「どうなるんだデ？」

ピチュー「、、、、、、、、破裂」

デデデ「は、は、はははは破裂！！？」

は、は、はははは破裂！！？

ルイージ「今は、、デデデ？」

リユカ「び、びっくりした、、、、」

ドクター「あんな大声出したら捕まりますよ、、」

近くの逃走者たちにまる聞こえだ、、

ピチュー「うるさいよ！」

デデデ「す、すまん」

ピチュー「とにかく、、はいっ！」

デデデ『アリエネークレープ』獲得

デデデ「よし、いくで、、」

残り118分 残り37人

協力、、そして破裂（後書き）

「??:? ゆるさん、、、」

ファイターたちめ、、

絶対に許さんぞおおおおお!!!!!!」

迫り来るハンター（前書き）

残り117分、、

ハンター3体放出まで2分、、

間に合うのか！！

迫り来るハンター

ピチュー「やばい、やばい、」

ピチューの元に、、

ミュウツー「大丈夫か？」

ミュウツーだ、、

ピチュー「ミュウツー!!」

ミュウツー「無事でよかった、、」

そこに他の逃走者も集まりだす、、

アイク「あれ、マスターは、いないのか？」

リュカ「あった、クレープショップだ！」

ファルコン「あれ、結構集まってるな、、」

ミュウツー「それで、、これからどうすれば、、」

ピチュー「あ、皆でこれをボスに食べさせなきゃ！」

アイク「何だそれ？」

ピチュー「これは、『アリエネークレープ』だよ！」

ファルコン「それをボスに食わせるんだな！」

ピチュー「うん！」

リュカ「よし、怖いけど頑張ろう！！」

ミュウツー、アイク、リュカ、ファルコン

『アリエネークレープ』獲得

ピチュー「これで六個のクレープが皆にいきわたったね、、」

ミュウツー「誰か、園内マップは持ってないのか？」

アイク「あ、俺持ってるけど」

ファルコン「でかした！」

園内マップを見て、誰がどこに行くかを相談する、、

ピチュー「よし、じゃあ行こう！」

ミュウツー「捕まるなよー！」

ばらばらに分かれていく逃走者たち、、

そのころ、、

デデデ「あと1ぶんしかないデ！」

急ぐデデデ、、、、

向かう先には、、

リドリー「ヒャッハアアー！ー！ー！」

リドリーだ、、

デデデ「追いついたデ、リドリー！」

リドリー「あ？何かようでもあんのか？」

デデデ「これをくらえ！」

リドリー「あ？クレープがどうしたんだよ？」

デデデ「これを喰らえ！」

リドリー「ああ、食べろって事か、、

美味そうだな、、、、

どれどれ、、、、」

・・・パクッ！

リドリー「う、美味しいいいいい！！」

チュドオオオオオオオオオン！！

デデデ「、、、、、、、、」

破裂した、、、、

デデデ「、、、、ミッションクリア」

しかし、、

デュオン「がははははは！とうちゃーく！」

デュオンがハンターBOXに到着、、

デュオン「オラ！」

プシューー！！

ハンター「、、、、、、」

ハンター3体放出、、合計8体

プルルル、、、、プルルル、、、、

ドクター「デデデの活躍によりリドリーは停止」

デデデ「やったデ！」

ピチュー「停止、、、じゃない？

破裂じゃない？」

ドクター「が、しかし」

マリオ「デュオンがハンターBOXに到着

結果、合計8体となった!？」

ミュウツー「嘘だろ、、、」

ネス「うわ、最悪だ、、、

ミッション行つとけばよかったー!!」

ミッションに行かなかった自分を悔やむネス、、、

マリオ「うわ、最悪だ、、、

ミッション誰かいけよバカーー!!」

他の逃走者を攻めるマリオ、、、

ネス「最低だよ、、僕、、」

落ち込むネス、、

マリオ「最低だよ、、俺以外の全員、、」

落ち込むマリオ、、

ドクター「やべえな、、」

ハンターを警戒する、、天才医師、、

ドクター「エリアが反則並みに広いのが強みかな、、」

ファルコン「ハンターをこれ以上放出させてたまるか！」

果敢にミッションに向かうファルコン

ファルコン「何で、危険を承知でミッションに挑むかって？

それは、俺が男の中の男、、、

キャプテン・ファルコンだからさ!!」

誰も聞いていない、、、

マリオ「しかし、以外にハンター来ないな、、、」

ヨッシー「そうですね、、、」

マリオとヨッシーに迫る、、黒い影、、

マリオ「うわ、来た！」

ヨッシー「ひえええええ！」

ハンターが視界に捕えたのは、、

ヨッシー「僕うううう！？」

ヨッシーだ、、

徐々に差を縮められるヨッシー、、

ヨッシー「タースーケーテー！」

ポンッ！

ヨッシー確保 残り36人

ヨッシー「うそだあ、、、」

ルイージ「ヨッシーが捕まった、、」

メタナイト「まずい雰囲気になってきたな、、」

動揺する逃走者たち、、、、

メタナイト「もしかしたら、私も捕まってしまうんじゃない？

まあ、それはありえないな！

はっはっはっは！」

そこにハンター、、

見つかった

メタナイト「ほう、私を捕まえるか、それもいいだろう

しかし、私を捕まえたところでって、あああ！」

ポン！

メタナイト確保 残り35人

カービー「あ、あほが捕まったプ」

ルイージ「よし、クレープショップに着いた！

って、あれ？」

誰も、、、いない、、、

ルイージ「、、、、、、、」

そこにかける、ドクターマリオ、、、

ドクター「ルイージ、、、」

ルイージ「、、、何？」

ドクター「無駄足だったな、、、」

ルイージ「わざわざ言わないでよ！」

ドクター「あひゃひゃひゃひゃ（笑）」

ルイージ「（泣）」

迫り来るハンター（後書き）

お久しぶりです。

作者です。

凄い地震でしたね、、

被災者の方々の無事を祈ります、、

ミッション2終了(前書き)

残り114分、、

このままでは、2分後と4分後に

ハンターが六体ずつ放出されてしまう、、

間に合うのか！

ミッション2終了

マリオ「ハンターの数が増えて、うごけねえな、、」

ハンターの恐怖に打ち勝つことができない、、

ネス「今からでも、なんか出来るかもしれない

とりあえず、他の人を探そう」

なんとか、皆の役に立とうと移動を試みるネス、、

ネス「ハンターいないな、、よし、、」

???「うわ！」

ネス「うへ！」

ネスの目の前に、、

ポーキー「驚かすな馬鹿！」

ポーキーだ、、

ネス「あ！ポーキー！！」

ポーキー「邪魔すんなよ！」

ネス「何で、ハンター放出しようとするのさ！」

ポーキー「ハンターを放出すれば、ある人から金がもらえるからな」

ネス「誰から？」

作者「俺です！」

ネス「うわ！何だ作者かよ、、」

作者「なっ何だとはなんだ！

俺、この小説の作者だぞ！

俺がちょっと書けばお前なんてこの小説から、、」

ネス「中は、、なんだこれ？」

『アリエネークレープ』・・・何かしらに使えます♪

ネス「どうやって使えば、、」

ポーキー「お、美味そうだな、、よこせ！」

バキ！

ネス「グヘ！」

ポーキー「いただきます♪」

パク！

ポーキー「美味しいな、、ん？

ぐおおおおおおおおお！」

ネス「え？．え？」

ポーキー「くそおおおおおおお！

ネスウウウウ！はかったなああああ！」

ネス「ぼっぼくは何も、、」

ポーキー「ぐわあああああああ！！」

チュドオオオオオオオン！！

ネス「、、、うそーん」

そのころ、、、

アイク「はあ、、はあ、、」

レックウザ「くそ、、なんだお前は！」

俺になんか恨みでもあんのか！」

アイク「食え！」

レックウザ「え？もぐもぐ、、、、」

アイク「よし、、、、」

レックウザ「ぐわあああああああああああ！」

チュドオオオオオオオオオ！

アイク「疲れた、、」

ファルコン「やばい！あと30秒しかない！」

ガレオムのもとへ急ぐ、、

ガレオム「もうすこしか、、、、」

残り10秒

ファルコン「まずい、、これは間にあわねえ！」

諦めた、、

ガレオム「オラ！」

プシュー！

ハンター3体放出 現在11体

プルルルル・・・

ルイージ「ネスとアイクの活躍により、、

ポーキーとレックウザが停止

やったあああああああ！」

ドクター「おい、緑馬鹿」

ルイージ「緑馬鹿!？」

ドクター「まだ続きがある、、

しかし、ガレオムがBOXへ到着し、

ハンターは計11名となった、、、、」

ルイージ「それって、、、、

もしかして、、、、ジ、エンド？」

ドクター「エリアが普通の広さならな」

ルイージ「なんだ、じゃあ大丈夫か！」

ドクター「そうでもない」

ルイージ「何で！せっかく安心してたのに！」

ドクター「そうだな、、まず、遠くに見えるあのハンターが

確実にこっちに来てることが問題だ」

ルイージ「確かに、、、、

って、こうしてる場合じゃないでしょ！」

ドクター「まあ、遠いから大丈夫だ、

距離をとるぞ！」

何とかやり過ごした2人、、、、

ボスパッくん「そろそろだー♪」

残るボスは、ボスパッくんただ1体、、

ピチュー「いた、、、けど、ハンターがあそこにいる、、、」

ハンターのせいで動けない、、、

ハンター放出まであと30秒、、、

ピチュー「よし、ハンターどっかいった！」

20秒、、、

ボスパッくん「ふんふんふーん♪」

10秒、、、

ちゅどおおおおん！

ピチュー「、、、、すいー」

プルルル……

ミュウツー「ピチューの活躍により、ミッションクリア！」

リュカ「よかった、、、、」

スネーク「ピチュー、、、、なかなかやるな」

ルイーダ「でも、ドクターの言う通り、エリア広いよね、、、、」

ドクター「おかげでたすかってるよ、、、、」

スネーク「エリアが広いから楽勝だな」

ソニック「逃げ切れない要素が見当たらないぜ」

クレイジー「ふふふ、、、そうかそうか、、、

ちょうど暴れたかったんだ！」

次回、逃走者たちに更なる試練が訪れる！

ミッション2終了(後書き)

???
「何とかして、封印をとかなくては、」

マスターかクレイジーの

どちらかでも倒れてくれれば、」

ミッション3 (前書き)

残り時間110分

しかし、こんなに更新のペース遅くていいのか、、、

ミッション3

作者「やばああああああい!!!!!!」

マスター「うるさい!!!!!!」

作者「やばいんだよおお!!!!!!」

マスター「なんだよいきなりできて、、、」

作者「クレイジーが、エリアをぶっ壊そうとしてる、、、」

マスター「何だと!?!」

作者「お願いだよー、マスター」

何か道具出してよー」

マスター「お前は、ド○えもんか!!!!!!」

作者「お前なら止められるだろー」

マスター「あいにく今エクササイズ中で手が離せないんだ」

作者「うそだろ? エリア内に設置されたままのBOXにいるハンターさんたちは

どうするんだよ、、、へたしたら死ぬぞ、、、」

マスター「大丈夫だ、BOXはすべてステージに避難させてある」

作者「それならいいや♪」

マスター「でも次のミッションで使うはずだった装置が建物内においてあるままだ」

作者「ふーん、、、」

マスター「異常事態が発生すると起動する仕掛けだ」

作者「へえ、、、あ!!!!!!!!!!!!!!」

マスター「どうした？」

作者「せっかくだミッションにしちゃお!!」

マスター「ナイスアイデア!!!!!!」

プルル、、、プルル、、、

メールだ、、、

マリオ「なんだ？」

スネーク「ミッションだ、、、」

ワリオ「現在クレイジーがエリアに向かっている」

ソニック「残り90分に到着すると、、、」

建物エリアを破壊してしまう!???」

ドクター「何てこった、、、」

ルイージ「君たちはそれまでに建物エリアを脱出しなければなら
ない」

ネス「しかし、このままでは建物エリア崩壊と同時に」

建物エリアのどこかにある装置が作動してしまう」

アイク「装置は二つ、、、」

装置を止めたければ危険な建物エリア内で装置を探し出し、

三人で同時にレバーを引かなくてはならない」

デデデ「三人も危険なエリアに来るかデ？」

マルス「きついな、、」

ロボット「装置のうち一つは賞金をリセットしてしまう、

『賞金リセット装置』だ、、」

リンク「賞金リセット!？」

ファルコ「かんべんしてほしいぜ、、」

ウオッチ「もうひとつは君たちを監視する

『監視部隊投入装置』だ、、」

サムス「急ぎたまえ、、」

ピカチュウ「最悪ピカ」

ミッション3

『装置を停止させ、封鎖エリアから脱出しろ』

残り90分に建物エリアが封鎖、、

それと同時に、二つの装置が起動、、

装置が起動してしまえば逃走者たちは非常に不利となる

阻止するには、3人で装置のレバーを引かなくてはならない

なお、装置の場所は分からない

過酷なミッション3が、、、、

始まった、、、、

ミッション3（後書き）

プルルル、、、、プルルル、、、、

??? 「何だ、、」

部下A 「クレイジーが、、、、」

??? 「何！本当か！！」

よし、刺客を送り込め！！」

部下A 「はい、、」

??? 「見てろファイターたちめ、、

必ずここを出て、貴様らを苦しめてくれる、、」

集まらない（前書き）

残り100分！！

逃走者は35名 ハンター111体

ミッション3クリアなるか？

集まらない

デデデ「とりあえず、、、建物エリアに入って、、、」

危険な建物エリアへと侵入するデデデ、、、

そこに、、、

アイク「おう、デデデ!!」

デデデ「アイク!来たのかデ!!」

アイク「ああ、あと1人必要なんだよな、、、」

デデデ「電話しよう、、、」

電話の相手は、、、

カービー「もしもし?」

カービイだ、、、

デデデ「ミッション見た？」

カービイ「、、、、、、見てない」

プツッ！！

デデデ「切られた、、、、」

カービイ「ミッションなんて冗談じゃないよ」

ミッションに興味が無いようだ、、、、

デデデ「なんや！！クソ！！！！」

アイク「俺も誰かよぼう！！！！」

しかし、、、

マルス「今、ハンターが近くにいて、、、」

リユカ「もう、怖すぎるよ!!」

ピカチュウ「パスで!!」

スネーク「俺は隠れる!!!!」

ロボット「隠れたほうが賢明ですよ?」

だれも来ない、、、

デデデ「クソ!!!!!!だれも来ないデ!!!!」

アイク「こっちもだめだ、、、いったいどうなってるんだ」

デデデ「、、、、確かにこのミッションは危険だけど、、、

だからこそやる価値があるんだデ!!!!」

アイク「せめて、、、もう1人、、、」

そこに、、、、

マリオ「よう!なにやってるんだ?」

マリオだ、、、、

デデデ「マリオ、、、まさかお前、、、ミッションのために?」

アイク「ここまで来たのか!!?」

マリオ「、、、、、、、、へ？」

デデデ「今まで、お前のことを誤解してたで！！！！」

アイク「ああ、まさかこんなに勇敢な奴だとは！！！」

マリオ「あー、、、、ちよつと？」

デデデ「さあいくデ！！」

マリオ「うそーん！！！！！！！！！！」

成り行きでミッションに挑むことになったマリオ、、、、

マリオ「マジかよ、、、、」

そのころ、建物エリアにいた逃走者たちは移動を始める、、、、

リュカ「とりあえず、、、、安全な場所に、、、、」

クツパ「急がなくては、、」

自分のみを守ることと精一杯なようだ、、

しかし、、ハンター、、、、

見つかったのは、、

クツパ「ヌオ!!?」

クツパだ、、、、

ハンターとの距離がどんどん縮まっていく、、、、

クツパ「くそ!つかまってたまるか!!!!」

クツパは迷路の中に逃げる、、、

ひたすら曲がり、ハンターを振り切る作戦のようだ、、

しかし、、、

クツパ「しつこい!!!!」

振り切れない、、

クツパ「馬鹿な!!!!」

ポンッ!!

クツパ確保 残り34名

クツパ「くそ、、、」

さらに、、、迷路の中に人影、、、

ロボット「楽勝ですね」

ロボットだ、、、

しかし、、、先ほどクツパを確保したハンターに見つかった

ロボット「きたか!!!」

迷路をうまく使い逃げるロボット、、、

さすがの頭脳だ、、、

そして、、、

ハンター「、、、、、、、、」

まいたようだ、、

ロボットは迷路の外へ、、、

しかし、遠くから別のハンター、、、

ハンター「!!!!」

見つかった、、

しかし、ロボットは気づいていない

ロボット「そもそも逃走中というのは足よりも頭なんですよ」

ハンター「ダッダッダ!!!」

ロボット「そんなことも気付かずに逃走中に出てるマッチョやろうとか」

もう、見てられませんよ、、、」

ハンター「ダッダッダ!!!」

ロボット「そもそも、僕みたいなのが逃走中を逃げ切る人材とか、、、

、、、うわぁ!!!!」

ポンッ！

ロボット確保 残り33名

ロボット「、、、、」

調子に、、、、乗れすぎた、、、、

残り95分 残り33名

集まらない（後書き）

今まで事情があってしばらく小説を更新していませんでしたが

これから、再開しようと思います

更新ペースは遅くなるかもしれませんが、

温かく見守っていただけたら幸いです

ミッション3 そしてドクターの不安(前書き)

残り95分

ミッション3終了まであと5分

ミッション3 そしてドクターの不安

現在、ミッションに挑むものは

デデデ アイク マリオ の3人、、

ミッションクリアなるか!!

デデデ 「どうする、、」

アイク 「とりあえず、探そう、、」

マリオ 「ああ、賞金リセット装置は止めないと、、」

デデデ 「、、通報部隊投入装置は？」

マリオ 「最悪良いだろ、やんなくても」

金に目の無い、、男、、

ドクター 「、、、、まいったな」

ルイージ「どうしたの？」

ドクター「ミッション3のことだ」

ルイージ「まあ、誰かがやってくれるよ、きっと！」

ドクター「俺が困ってるのはそっちじゃない」

ルイージ「へ？」

ドクター「このミッション3は賞金リセットと通報部隊投入は

阻止することができる、、、しかし

建物エリア崩壊を防げない、、、」

ルイージ「ほうほう、つまり？」

ドクター「つまり、残り90分以降、俺たちは建物エリアに入れない」

ルイージ「え？それって、、、」

ドクター「正直、かなりヤバイ、、、

エリアの約半分は建物エリア、、、

このエリアが東京ドーム12個分だから、、、」

ルイージ「半分の、、、東京ドーム6個分か、、、

でも、小さいようには思えないけど、、、」

ドクター「普通エリアの大きさは3〜4個分だ」

ルイージ「何だ、それなら安心、、、」

ドクター「できるか、緑馬鹿」

ルイージ「緑馬鹿!!?」

ドクター「ハンターの数を入力しろ。

普通は4個分に対してハンター4体

つまり、一個分あたり1体だ、、、しかし、今は、、、」

ルイージ「えーと、、、6個分当たり11体だから、、、」

ドクター「一個分当たり、2体と考えて良い」

ルイージ「2倍!!?」

ドクター「ああ、、、ミッション3が終わると同時に確保ラッシュ
ユだよ」

ルイージ「そんな、、、」

ドクターの予想は、、、当たるのか、、、

そのころ、唯一建物エリアにいる3人は、、

デデデ「、、、おい、あれって!!」

アイク「もしかして!!!!!!」

何かを見つけた3人、、、視線の先には、、

プリム「みつけたぞ!ファイター」

プリムだ、、、

マリオ「亜空軍はあの時封印したはずじゃ?」

アイク「そのはずだが、」

プリム「ふっふっふ、」

マリオ「まあ、要するに敵だろ、よし、」

プリム「えっ？何を、」

マリオ「くらえ!! マリオファイナル!!!!!!」

チュドオオオオオオオオオオ！！！！！！！！！

プリム「ぎゃあああああああ！！！！！！！！」

マリオ「、、、よし、いくか!!」

アイク「、、、」

デデデ「強引な、、」

マリオ「やべえ!!あと3分だぞ!!」

アイク「さがそう!!!!」

必死にエリア内を走る3人、、、

そして、、、

マリオ「見つけた!!!!」

賞金リセット装置を発見、、横には3本のレバー、、

マリオ「せーの!!!!」

がちゃん!!!!!!!!!!

賞金リセット装置 停止

しかし、、、

クレイジー「はっはっは、、、とうちゃーく!!!!!!!!!!」

クレイジーの魔の手はすぐそこまで来ていた、、、

残り91分 逃走者33名 ハンター11体

ミッション3 そしてドクターの不安（後書き）

プリム「やられちゃいました♪テヘ♪」

???「、、、、、、」

きゅいいいいいいいいん!!!!!!

プリム「ぐへえええええええ!!!!!!」

???「次の刺客を用意しろ!!!!!!」

ミッション3終了(前書き)

残り91分 建物エリア封鎖まで1分

アロアロス「おう!! さっきはプリムがお世話になったみてえだな
!!」

次は俺が相手だ!!」

マリオ「だまれ!! テラワロスめ!!」

アロアロス「アロアロスじゃボケ!!」

マリオ「やかましい!! マリオファイナル!!」

アロアロス「ぎゃあああああああ!!」

チュドーン!!

マリオ「いそげ!! 早くしないと!!」

アイク「デデデ！ 遅いぞ！！」

デデデ 「お前らは先に行ってるデ！！」

マリオ「うん!!!」

マリオはダッシュで去った、

アイク 「っておい！！！！」

マリオ「なんだ!!!」

アイク 「もうチヨイなんかしろよ!!」

マリオ「しるか!!! おれはさきいくぞ!!!」

アイク「くそ、、、マリオのやろう」

ちゅどおおおおおおおおおおおん！！！！

アイク「なんだ!!?」

クレイジー「ひゃっはー!!!」

クレイジーが破壊を始めた、、、

アイク「くそ、、、俺はともかくデデデは間に合わない、、、」

デデデ「アイク、我輩をおいていくデ」

アイク「馬鹿な!!! そんなことは戦士としてできない!!!」

デデデ「我輩は駄目だデ、せめてアイクだけでも、、」

アイク「弱音吐くな!!! ぶっ飛ばすぞ!!!」

デデデ「しかし、、、、、、、、!!!!!!」

アイク「どうした? 変な顔して、、」

デデデ「それだデ!!!」

アイク「は？」

デデデ「我輩をふっとぼすんだデ！！」

アイク「、、、、なるほど！

俺ほどの力があれば、スマッシュ技で何とか！！！！」

デデデ「よしカモン！！」

アイク「よっしゃあ！おらああああ！！！！！！」

ドガ！！！！！！！！

デデデ「ぐばああああああああ！！！！！！！！！！」

キラリーン☆

デデデは星になりましたとき

デデデ「あぶなかった!!!!!!」

作者「チッ無事か、」

デデデ「あれ？何で作者が、」

作者「おれが、クレープ食べてるところにお前がふってきたんだろ
うが」

デデデ「そうか、、、作戦は成功だデ」

作者「しかし、、、ひどく疲れた顔だな、、、」

クレープでも食うか？」

デデデ「マジで!!?」

作者「このクレープはうまいぞー。

とくにこの『アリエネークレープ』とか、」

デデデ「食ってたまるか!!!!!!」

作者「でも、ほかには『うるさい黄ネズミ』しかないな、」

デデデ「そ、それはクレープなのか？」

一方そのころ、、、

アイク「アイクスライディング!!!!!!」

ズザザアアアア、、、

クレイジー「おらああああ!!!!!!」

建物エリア「ぐわああああああ!!!!!!」

建物エリア崩壊

アイク「ぎりぎり、外に出れたな、、、」

しかし、、、いま、、、

しゃべってなかった？建物エリア、、、」

残り90分 逃走者33名

ミッション3終了(後書き)

作者「クレイジーのやつ、、、」

エリア壊した勢いで封印が解けたらどうすんだよ、、、

まあ、大丈夫だとは思うけどさ、、、」

不安の中（前書き）

封鎖エリアからの脱出には全員が成功

しかし、、、

不安の中

プルルル・・・ プルルル・・・

メールだ、、

マリオ「えーなになに、、、、ミッション3結果、、」

ピチュー「マリオ、アイク、デデデの活躍により、

賞金リセット装置は停止した」

デデデ「やってやったデ！」

アイク「今回、俺、大活躍じゃないか？」

全部のミッションに貢献してるし、、、、」

ルイージ「よかった、、、、」

ドクター「だから続きを読めよ緑馬鹿」

ルイージ「もう、緑馬鹿にもなれたよ、、、、」

ドクター「読んでみろよ」

ルイージ「えーと、、、しかし」「通報部隊投入装置」が起動

3体のロングレッグマンが投入された、、、

、、、、、、、、やばあああああい！！！！！！」

ドクター「まずいな、、、これは本当に確保ラッシュか？」

ミッション3の失敗により3体のロングレッグマンがエリアに投入された。

彼らは2m以上の身長で、逃走者を見つけ次第、全ハンターにその位置情報を伝える。

これによって、逃走者は、ますます不利になってしまった、、、

カービー「、、、、自首しよっかな、、、、」

自首に心が揺らぐ、、、

カービー「でも、自首したら自首手続き料を支払わなくちゃいけないだっけ？」

自首をすれば、金は手に入るが、その額は少なくなってしまう、、

カービー「むむむ、、、、、、」

悩むカービーの後ろから、、、、ハンター、、、、、、

ハンター「!?!」

見つかった、、

カービィ「やばい!ハンターだ!」

曲がり角を曲がるカービィ、、

そこに、、

ハンター「!?!」

カービィ「うそおお!」

ぽんっ！

カービィ確保 残り32名

カービィ「くそくそくそー！！」

さらに、、、

ロングレッグマンも通報を始める、、、

見つかったのは、、、

ドンキー「バナナ！バナナ！」

ドンキーだ、、、

すぐさま、ドンキーの居場所がハンターに知らされる、、

確保へ動くハンター、、

ドンキー「ふんふんふん♪」

ご機嫌なドンキー、、

しかし、ハンターの魔の手はすぐそこまで迫っている、、

ドンキー「あ！ハンター！！」

あれ！こっちも、、そっちも、、」

いつの間にか囲まれていた、、

ドンキー「うほおおおお!!」

ぽんっ!

ドンキーコング確保 残り31名

マリオ「確保情報が来た、、、」

ゼルダ「ロングレッグマンの通報によりドンキーコング確保、、、

恐ろしいわね、、、」

ロングレッグマンを恐れる逃走者たち、、

ディディー「はあ、、兄貴、、」

兄貴分の確保にしょげるディディー、、

そこに、、さきほどドンキーを確保したハンター、、

ディディー「いた!!!」

ハンター「!!!」

見つかった、、

ジャングルで鍛えた瞬発力を利用して逃げるディディー

しかし逃げた先に、、、別のハンター、、、、

ディディー「捕まるかよ!!!!」

ディディーがなんとハンターの頭上を飛び越えた

着地と同時に猛ダッシュするディディー

そして、、

ハンター「、、、、」

まいたようだ、、、、

デイディー「はあ、、、はあ、、、」

これが、、、野性の力、、、

リザードン「おい、ゼニガメ、、、」

ゼニガメ「なんだよ？フシギソウに聞いてくれよ」

フシギソウ「おしつけるな！」

行動を共にするポケモン3匹、、、

その姿を、、、ロングレッグが捉えた、、、

ハンターに3匹の位置情報が知らされる、、、

ハンターはすぐ確保へと向かう、、、

リザードン「来た！！！！」

フシギソウ「まじかよ！！！」

ゼニガメ「うわうわうわ！！！！！」

しかし、、、ハンターと3匹との距離は縮まる一方、、、

リザードン「よし！！！！！」

フシギソウ「どうした？」

リザードン「フシギソウ！今まで楽しかったぜ！！」

フシギソウ「へ？」

リザードンがフシギソウの足を引っ掛けた、、

フシギソウ「リザードン！！貴様！！！！！！！！」

リザードン「悪く思うな！！！！！！」

フシギソウ「おらああ！！！！」

リザードンに襲い掛かるフシギソウ、、

リザードン「やんのかおら！！！！」

フシギソウ「先に仕掛けたのはお前だろうが！！」

そこに近づくハンター、、そして、、

ぽんっ！

馬鹿2匹「あ！！！！」

リザードン確保 残り30名

フシギソウ確保 残り29名

仲良く、、、牢獄行きだ、、、

リュカ「怖い、、、」

臆病者のリュカ、、、

ネス「大丈夫だって!!」

それに対し、ネスは勇敢だ、、

しかし、そこにもハンター

リュカ「ひいい!!!!」

ネス「ハンターだ!!!!」

逃げる二人、、ハンターが視界に捕らえたのは、、

リュカ「おーたーすーけー!!!!」

リュカだ、、、

リュカ「やだー!!!!!!」

ぽんっ！

リュカ確保 残り28名

確保情報が、、、メールで知らされる、、、

マリオ「リュカ確保、、、」

ネス「うわ、、、リュカが捕まった、、、」

ドクター「思ったとおりの最悪な展開だ、」

ソニック「あっちもハンター、こっちもハンター

どこにいったら見つからないんだ？」

ハンターは神出鬼没、いつどこから現れるか、分からない、い、い、い、

そのころ、建物エリアの残骸で、

アロアロス「クソ、えらいめにあった、

ん？」

クレイジー「あー、こんだけ破壊したら眠くなってきたがった

ちょっと一寝入りするかなと、ZZZ」

アロアロス「これは、、、幹部昇進のチャンス!!!!」

あの方に報告せねば!!!!」

残り85分 逃走者28名

不安の中（後書き）

部下A 「刺客から連絡がきました、、」

??? 「きかせろ」

部下A 「は！」

プツッ！

アロアロス 「クレイジーをやっちまうチャンスです！！」

俺に部隊をください！！！！

かならずしとめてみせます！！！！！！

??? 「、、、、間違いなくやれるんだな？」

アロアロス 「お任せください！！！！」

??? 「よし、、信じよう！！！！」

ガチャッ！

??? 「刺客に亜空軍第12番部隊をゆだねる」

部下A 「は！」

畏（前書き）

今回、あまり逃げたりとかありません

買

ミッション3終了から6分が経過、、

エリアは混乱で包まれていた、、

マリオ「やべえ、、、ハンターだ、、

距離をとっておこう、、、ん？」

マリオの視線の先には、、

ハンター「、、、、」

ハンターだ、、、

マリオ「あぶねえ、あぶねえ、、自らハンターのところに行くところだった、、

こっちに逃げよう、、、、ん？」

ハンター「、、、、」

マリオ「なんだ、、、、どうなってやがる、、、、

ハンターが多いぞ、、、、」

ソニック「あっちには2人、、そこに1人、、

そっちにはロングレッグ、、、、

動けるような状態じゃないだろ、、、、」

ゼルダ「どうなってるの？さっきからハンターを見ない瞬間がほとんど無い、、」

逃走者が感じている違和感、、

それはハンターの多さ、、、、

ルイージ「どうなってるの、ドクター、、、」

ドクター「これこそがミッション3の真の恐ろしさっていうわけだ、、、」

ルイージ「真の、、、恐ろしさ、、、」

ドクター「俺たちはこの状況になるのを防げない、、、

、
防げるとしたら、それはミッション1かミッション2だ、

いくらエリアが半分になっても、ミッション1と2での
ハンター放出がなければ余裕だった、、、

俺たちはミッション1と2に全員で全力で取り組むべき
だった!!!!

考えれば、すぐにおかしいと思えたはずだ、、

、、
ミッション1と2、、手段は違えど目的は同じだった、

ハンターの放出を食い止められるか、否か、、

普通、同じ系統のミッションが、、しかも連続で出さ
れるなんて

、、
おかしすぎる!!! しかし、、俺たちは気づけなかった、

それは、一体なぜか、、余裕だよ」

ルイージ「余裕、、、、」

ドクター「別の言い方をすれば、油断だ、、

俺たちはのっけから油断していた、、、

エリアがありえないほどに広がったから、、、

ハンターも決して多くなかったから、、、

最初は俺もこれは逃げ切るのに有利に働いてくれると考
えていた、、、

しかし、、、そうじゃない、、、」

ルイージ「いや、でもあれだけエリアが広ければ逃げ切ることは簡
単、、、」

ドクター「そこだ、、、

俺たちはエリアが広がったからこそ油断したんだ、、、

エリアが普通の大きさなら、これが最初の経験というこ
ともあり、、、

俺たちは終始油断しなかっただろう、、、

エリアが広すぎる、、、その裏に何かがあることは、

今考えれば、明確だ、、、

こんな良い条件でゲームをずっとさせてもらえると思う
ほうがおかしかった！

俺たちは、浮かれるあまり、そんなに簡単なことにさえ気がつかなかった、

この俺さえこのざまだ、、、、

エリアの広さは、、、、この状況を作り出すための罠だったんだよ。

それも、、とても巧妙な、、、、」

ルイージ「そんな、、、僕たちにとって有利だと思っていたことが、

僕たちを油断させるための罠だったなんて、、、、」

ドクター「他にも巧妙なところはある、、、、

、、
ミッション1は機械を止めることでハンター追加を阻止、

、、
ミッション2はボスを止めることでハンター追加を阻止、

この二つのミッションはさっきも言ったが、

同じ系統のミッションだ、、、、

しかし、だれもそのことに違和感を感じなかった、、、、

一体なぜか？

ミッション1が機械を止めるミッションだったのに対し、
ミッション2にはボスを起用していた、

これによって、一つ目のシンプルなミッションに対して

二つ目のミッションにはボスキャラが絡む、つまり

複雑なミッションだというギャップを俺たちに植え付け
たんだ

これによって、二つのミッションは結び付けて考えるこ
とは無い。

エリアの広さの裏に隠れた罠に気づくものもない、
」

ルイージ「、、、、」

ドクター「このミッションを作った奴は、相当性格がねじれてる、
、

、
それに、、、みとめたくはないが、俺よりも頭が良い、

これは、、、、、

作者はおろか、マスターにもクレイジーにも作ることは
できない!!--!」

ルイージ「じゃあ、だれがミッションを作ったって言うの？」

ドクター「おそらく、この逃走中を提案したのもその人物、、、

、
、
」
エリアも当然その人物が広く作るよう指示したんだろう、

ルイージ「、、、、」

ドクター「それが誰かは分からない、、、

しかし、、、今回クレイジーがエリアを壊そうとしたのは偶然だ」

ルイージ「どうして、そうおもうの？」

ドクター「建物の崩れ方だ、、、」

ルイージ「崩れ方、、、」

ドクター「クレイジーは破壊神、、、

だれよりも破壊を知り尽くしている男だ

そんな奴だからこそ、実は破壊の前に下調べを怠らない、
、
、
」

ルイージ「下調べ？」

ドクター「クレイジーは破壊を愛してやまない、、

それゆえ壊れ方にも美しさを求める、、

そのために最高の破壊ができるように破壊物をよく調べ
るんだ、、」

ルイージ「まったく、知らなかった、、」

ドクター「しかし、今回の崩れ方はめっちゃくちゃだ、、

そんな壊し方をする理由は、一時的なストレスの解消し
かない、、

つまり、、最初から壊す予定は無かったんだ、、」

ルイージ「、、、、」

ドクター「いいか？クレイジーがエリアを破壊しなくては、

、
罠は発動しない、、、しかしクレイジーは破壊した、

それはなぜか、、、」

ルイージ「クレイジーが操られてるとか、、」

ドクター「その線は薄い、、、クレイジー自体に異常は見られな
かった、、」

ルイージ「じゃあ、、、どうやって、、、」

ドクター「今回の逃走中を企画した人物、、、」

仮にXと呼ぼう、、、

Xは人の動きを読み取る力が極めて高く、、、

なおかつ頭脳も明晰、、、

そんな人物だ。それ以外に可能性は無い、、、」

ルイージ「でも、、、そんな能力の持ち主なんてありえない!!」

ドクター「確かに、今の科学から言えばそれは無理だ、、、

しかし、、、今よりはるかに進化した人間だったらどう
だ」

ルイージ「どういうこと?」

ドクター「未来人だとは考えられないだろうか、、、」

そのころ、、、どこか分からぬ場所で、、、

X【・・・・・・驚いたな、、、】

幹部1【どうしました？、、、】

X【この段階で私の正体に気づきかけているものがあるよ、、、】

幹部1【まさか、、、】

X【このプレイヤー、、、dokuta—marioのデータを集めてくれ、、、】

幹部1【はっはい!!!!】

X【素晴らしいな、、、、実に素晴らしいよ、、、、

これなら私も少し楽しめそうだ、、、、】

そのころ、、、

作者「次のミッションは、、、指示されているか？」

マスター「こんな感じで、、、とのことだ、、、、」

作者「ふーん、、、性格ねじまがりまくりと思ってたけど、そうでもないのかな、、、」

マスター「さてね、、、」

残り81分 逃走者28名

罨（後書き）

アロアロス「応援部隊が到着しだい、、、

クレイジーを攻撃する！！！」

クレイジー「うーん、、、ZZZ、、、」

クレイジーに魔の手がせまる、、、

ミッション4 (前書き)

残り時間80分、

絶体絶命の逃走者たちに、救いの手が差し伸べられる、

ミッション4

作者「ミッション4、、、」

もしこれをクリアできなかったら、、」

マスター「全員アウトだろうな、、」

作者「全滅はつまらないからな、、」

頑張れよ、スマブラメンバー、、」

プルルル・・・プルルル・・・

メールだ、、、

マリオ「ミッション4、、、、」

頼む、、、、これ以上不利になるわけには行かない！」

ドクター「このミッションの内容次第では、、、

全滅の可能性も高い、、、」

ルイージ「ハンター消滅とか、、、エリア拡大とか、、、

とにかく、この状態から脱出させてよ!!

頼む、、、、」

スネーク「、、、見るか。」

ソニック「これより、エリア内3か所で『冷凍銃』を配布する。」

サムス「冷凍銃は1か所につき3台用意されている」

ピチュー「君たちはこれを使い、ハンターをフリーズさせ、

動かなくすることができる。」

ミュウツー「フリーズしたハンターは君たちを追う事は無い。」

マリオ「しかし、、、『冷凍銃』が配布されるのは、、、

残り70分までだ、、、」

ルイージ「急ぎたまえ、、、、」

ミッション4 冷凍銃を手に入れろ!!

これより、残り70分までの10分間、

エリア内3か所で『冷凍銃』を配布する。

逃走者は、このアイテムを使い、ハンターをフリーズさせることができる。

フリーズしたハンターは、逃走者を追う事は無い。

ルイージ「急ごう、ドクター!!」

ドクター「おう!!!」

マリオ「いくらなんでも、これはやるだろ、、、」

ゼルダ「急ぎましょう、、、」

ソニック「俺の俊足をみせてやるZE!」

ほとんどの逃走者が、ミッションに向かうようだ、、、

スネーク「冷凍銃があれば、、、だいぶ有利にゲームを進められるな、、、」

スネークは宝箱の中のアイテムを1つ獲得している、、

これと冷凍銃があれば、とても有利にゲームを進めることができる。

スネーク「急ごう!!」

ドクター「これを逃せば、、チャンスは無い!!」

ルイージ「でも、ドクター、、」

ドクター「なんだ？」

ルイージ「メールには、配布場所がかかれてないよ？」

ドクター「た、確かに、、」

ひたすら探すしかないのか？」

そのころ、マリオは、、

マリオ「、、、、ん？」

何かに気づいたようだ、、、、

マリオ「園内マップが3か所光ってる、、、、

これってもしかして、、、、

配布場所か!？」

ミッション1の時に手に入れた園内マップ、、、、

そこにしるされていたのは、、、、

マリオの予想通り、『冷凍銃』の配布場所だ、、、、

マリオ「これがわかれば、、、、うんと楽になるぞ!!！」

今、このことに気づいているのは、マリオただ1人、、、、

マリオ「何とかして、皆に知らせないと、、、」

そうだ！メールで一斉送信すれば！！」

ドクターほどではないが、頭もきれるマリオ、、、

早速、その情報をメールで知らせる。

プルルル、、、プルルル、、、

ルイージ「メールだ、、、」

ドクター「確保情報か？」

ルイージ「いや、、、兄さんからだ！！！！！！」

ドクター「なに！？」

デデデ「一体なんだデ？」

メール

『冷凍銃』の配布場所がわかった！！！！

「大観覧車」の裏、「ゴースト・ハウス」の前、「ペーさんのハニ
ーハント」の中だ！！！！

皆、向かってくれ！！！！

俺も急ぐ！！！！

サムス「これって、すごい情報じゃない！！！！！」

ピット「さすが、マリオ！」

なんやかんやで役に立つよ!!!」

デデデ「よし、急ぐデ!!!」

ファルコン「さすがだな、、しかし、どうしてわかったんだ!?!」

ルイージ「やっぱり、兄さんはすごいや!!」

僕たちも急ごう!ドクター!!」

ドクター「やってくれるな、、、

負けてらんねえぜ!!!」

マリオからの情報を頼りに、冷凍銃を取りに向かう逃走者たち!

間に合うのか!?!?

残り
7
6
分

ミッション4(後書き)

アロアロス「ふっふっふ、、、

いくぞ!!!!!!

亜空軍第12部隊!突撃だ!!!!!!」

クレイジー「!?!?

な、なんだ!?!?

アロアロス「もう、遅い!!!!!!」

クレイジー「うわああああああ!!!!!!」

アロアロス「はっはっはっは!!!!!!

はーはっはっはっは!!!!!!」

クレイジー「うるさいぞ」

立ち向かう逃走者（前書き）

残り75分

『冷凍銃』の配布終了まで、あと5分

立ち向かう逃走者

現在、ハンター111体

逃走者は残り28名

その全員がミッションに向かう！

間に合うのか！！

ソニック「よし、、これまで、活躍できなかったからな！！」

俺の俊足を見せてやる！！！！」

ミッションに燃える、ソニック、、

ソニック「よし、、遠くないぞ、、、、」

しかし、後ろからハンター、、、

ソニック「もう少し、、、ん？」

ハンター「!！」

ソニック「しまった!!!！」

見つかった、、、

ソニック「うおおおおお!!!!！」

自慢の俊足で逃げるソニック、、、

ソニック「よし！逃げ切れる！！」

しかし、、、

ソニック「、、、マジかよ、」

目の前から、、、2体のハンター

ソニック「くそ！！！」

別方向に逃げるソニック、、、

ソニック「こうなったら、、このまま向かう!!」

ハンターに追われるまま、『冷凍銃』を取りに向かう、、

ソニック「あれだ!!!!」

ソニックの目の前に配布場所、、

ソニック「よし!『冷凍銃』ゲット!!」

3台あるから、、3体全員止められる!!」

ハンター「ダッダッダ！」

ハンター「ダッダッダ！」

ハンター「ダッダッダ！」

ハンター「ダッダッダ！」

ソニック「１体増えとるうううううう！！！！！」

いつの間にか、もう1体来ていたようだ、

ソニック「こうなったら、3体とめてからかつこよく散ってやる！」

プシュウウウウウ！！！！！！

プシュウウウウウ！！！！！！

プシュウウウウウ！！！！！！

ソニック「よし、3体止めた！！

これでかっこよく散れる！！

、、、、ん？」

ソニックの目の前には、、『冷凍銃』の煙が充満している、、

ソニック「、、、、これは、もしかして、ブラインドになるんじゃない！！」

※アロアロスの豆知識コーナー

「ブラインド」とは目隠しみたいなもんだよ♪

ソニック「何か、変なコーナーがあつた気がするが、

気にしないZE!!!」

逃げる!!!!!!」

ダッシュで逃げるソニック、、、

ソニック「逃げ切ったか？」

ハンター「!!」

ソニック「くそ、、、でもこの距離ならいける!!」

自慢の俊足を生かして逃げる、、、

ハンター「、、、」

まいたようだ、、、

ソニック「やったーーーー！！！！」

奇跡の生還だ、、、

ぷるるる・・・ぷるるる・・・

ルイージ「ソニックの活躍により、ハンターが3体停止した。」

ゼルダ「すごい!!」

マリオ「これでハンターはあと8体だ!!!!」

スネーク「くそ、あのはりねずみめ、、、

俺も急ごう!!!!!!」

デデデ「よし!そろそろつくデ!」

しかし、近くにハンター、、、

デデデ「うお!」

その場に隠れるデデデ

ハンター「、、、、、、」

気づかれなかったようだ、、、、

デデデ「あぶな!!」

ミッションは危険と隣りあわせだ、、、、

マルス「ついた!!!!」

今までろくな活躍もできなかったマルス、、

マルス「やっと、活躍できるぞ!!」

マルス『冷凍銃』獲得

マルス「いくか!!」

続いて、ルイージとドクターが到着

ルイージ「よし!出て来い、ハンター!!」

ドクター「これならいけるぞ、、」

つぎつぎに『冷凍銃』を獲得していく逃走者たち、、、

オリマー「、、、ハンターいないよね？」

ハンターにおびえるオリマー、、、

オリマー「来るなよ、、、ハンター来るなよ、、、」

しかし、、、願い通じず、、、ハンターが接近、、、

オリマー「くるな、、、くるな、、、く!!!!」

ハンター「!!!!!!」

オリマー「ぎゃー！……くるな、くるなああああ」

ポン！

オリマー確保 残り27人

オリマー「くそー！……！」

、さらにオリマーを確保したハンターが次のターゲットを見つけた、

スネーク「うわ!!」

ファルコン「来た!!!」

スネークとファルコンだ、

ファルコン「逃げる!!!」

スネーク「ファルコンはや!」

ハンターの視界には、スネークだ、

スネーク「しかたない!!!」

スネークがかまえたのは、、『トリモチ弾』だ、、

スネーク「くらえ!!」

パン!!!!

ハンター「!!!!」

スネーク「たしか、効果は1分だったな、、、

早いところ、逃げよう、、、」

距離をとるスネーク、、、

そのころ、、、ファルコンは、、、

ファルコン「スネーク捕まったかな？

、、、ん？」

ハンター「!!!!」

ファルコン「うわ!!!!!!」

ハンターとの距離、およそ20m、、、

逃げ切れるか！！

残り72分 逃走者27人

立ち向かう逃走者（後書き）

アロアロス「くそ、、、つよすぎる、、、」

クレイジー「口ほどでもないな、、、」

アノマロカリス

アロアロス「アロアロスじゃボケ！

誰が古代生物だ！！！」

クレイジー「いや、でも、お前見た感じ古代生物だぞ」

アロアロス「ほんとだ！！！」

ハンター冷凍!! (前書き)

読んでくれた方は感想等いただけるとうれしいです。

ハンター冷凍!!

俊足レーサーキャプテンファルコンがハンターに見つかった、、

ファルコン「くそ! 男の意地を見せてやる!!」

さすがに速いファルコン、、

そう簡単には捕まらない、、

ファルコン「くそ、全然逃げ切れねえ!!」

さらに、横から、ハンターがもう一体、、

ファルコン「まじかよ!!」

さらに、向かう先には、、、

ロングレッグ「!!!」

ロングレッグマンだ、、、

すかさず通報する、ロングレッグ、、、

これにより、ファルコンの位置情報は全ハンターに知らされた。

ファルコンのもとに向かうのは、、、近くにいた2体のハンター

ハンター「!!!」

見つかった、、、

ファルコン「くそ！これはむりか！！？」

ハンターに挟まれてしまった、、、

ファルコン「おら！！！」

ハンターのあいだを抜けようとするファルコン

しかし、、、

ファルコン「ああ！！！」

ぽん！！

キャプテン・ファルコン確保 残り26名

ファルコン「くそー！！！！！」

筋肉レーサー、、散る、、、、

ぷるるる……ぷるるる……

マリオ「確保情報、、ルイージか？」

ルイージ「誰が捕まるか!!！」

ドクター「うるさいぞ!!」

いきなりどうしたんだ!!」

ルイージ「ああ、ごめんごめん、、、

兄さんに何かいわれた気がして、、、

ドクター「被害妄想だろ？」

ルイージ「そうなのかな、、？」

マルス「セパイダーマン・ライド付近にて、

ファルコン確保、、、

何だ、そのアトラクション、、、

デデデ「スパイダーマンではないのか、、、」

ネス「アトラクションも気になるけど、、

ファルコンが捕まったのか、、」

サムス「かなりの難易度ね、、」

ファルコンが確保され、残る逃走者は26名となった、、

アイク「そうこうしてる間に、残り70分がきてしまう！」

そう、、、なんやかんやであと1分しかない！

アイク 「必殺のBダッシュだ!!!!!!」

マリオ 「は！何か知らないけど、十八番をとられた気がする！

勘のいい、ミスター任天堂、、

急ぐアイク、、そして、、

アイク 「到着!!!!!!」

アイク 『冷凍銃』獲得

そして、、残り時間は70分に、、

『冷凍銃』配布終了

ぷるるる・・・ぷるるる・・・

デデデ「あー、、ミッション4終了か、、」

スネーク「一足遅かったか、、」

現在、『冷凍銃』を持っているのは、

マルス、ルイージ、ドクターマリオ、アイクの4人だ、

ルイージ「ハンターいるな、」

ドクター「よし、いこう！」

ハンターのもとに走る、ルイージとドクター、

ハンター「!!!」

見つかった、

ルイージ「くらえ!!!」

プシュウウウウ!!!

ハンター冷凍 現在7体

さらに、ドクターにも、、ハンター、、

ドクター「はい、おつかれさまでしたっ！」

プシュウウウウウ！！

ハンター冷凍 現在6体

ドクター「よし！！！」

ルイージ「やったね！！」

さらに、、、

アイク「くらいな!!!!」

プシュウウウウウ!!

ハンター冷凍 現在5体

ぷるるる・・・ぷるるる・・・

マリオ「ルイージ、ドクター、アイクの活躍により、

ハンターが合計3体冷凍、、、

その数は5体となった、、

ルイージも意外にやるんだな、、」

弟の活躍に驚く兄、、、、

マリオ「さあ、あと70分だ!!!!

逃げ切るぞ!!!!!!」

残り時間69分

逃走者26人に対して、、ハンターは5体、、、、

逃げ切るものは現れるのか!!

ハンター冷凍!! (後書き)

クレイジー「、、、しつこいな

ティラノサウルス、、、、」

アロアロス「アロアロスじゃボケ!!!!」

クレイジー「くそ、、、いい加減ばててきたな、、、」

アロアロス「おらー!!!!!!」

クレイジー「パンチ!!!!」

アロアロス「うわー!!!!」

クレイジー「いい加減、あきらめろ!!!!」

アロアロス「いやだ!!!!」

君を倒さなきゃ、、、自分の力で倒さなきゃ、、、

ド○えもんが安心して未来に帰れないじゃないか!!」

クレイジー「ド○えもんの最終回か!!」

アロアロス「くらえ! アロアロスビーム!!」

クレイジー「ぐわ!!!!」

よ、よりによって弱点の手首に当たった!!」

アロアロス「アロアロスビーム!!!!」

クレイジー「ぐは!!!!」

あぶねえ、、、

しかしこの技はもう見切った!!

そんなビームはもうあたらないぜ!!」

アロアロス「アロアロスビームZ改!!!!」

クレイジー「パワーアップしとるウウウウ!!!!」

ドッカーン!!!!!!!!!!!!!!

ミッション5 (前書き)

久しぶりの更新です。

だいぶ、間が空いてしまいました、、

ミッション5

マスター「おかしい、、」

作者「どうしたんだ？」

マスター「クレイジーの反応が無くなった、、」

作者「はい？機械の故障か？」

マスター「いや、修理に出したばかりだからな、、」

それは無いだろう、、」

作者「じゃあ、何でクレイジーの反応が無いんだよ？」

あいつがやられたとでもいうのか？

馬鹿も休み休みいえよ。

寝言は寝てから言えよ。

もっと冷静になれよ。

少し考えたらわかるだろ。

お前は馬鹿か。

馬鹿なのか。

あ、そうか、お前は馬鹿なのか。

ごめんな、お前が馬鹿だと気づかなくて。

でも、馬鹿なら馬鹿って最初からいえよ。

馬鹿は馬鹿なりに気を使えよ。

馬鹿のくせに黙ってんじゃねえよ。

とりあえず、謝れよ。

今すぐ、俺に謝罪しろよ。

そして土下座しろよ。

金をよこせよ。

500万でいいんだよ。

はやくよこせよ。

よこさないんならせめて靴でもなめろよ。

早くしろよ、馬鹿。」

その5分前、、、

元建物エリアにて、、

クレイジー「ぜえ、、ぜえ、、

なにがおこった、、

なぜトリケラトプスがこんなに強い？」

アロアロス「だから、アロアロスじゃボケ！！！！

！！！！
トリケラトプスとか、もはやアロアロスの面影無いわ
」

クレイジー「ぜえ、、ぜえ、、

ぐ！！！！」

ドサッ！

アロアロス「ふふふ、、クレイジーよ、、

冥土の土産に教えてやろう!!!

俺の強さの秘密はこれだ!!!」

クレイジー「それは、、『アリエネークレープ』?

それを食っても破裂するだけで強くなてならないはず、、」

アロアロス「ふふふ、、

実はこれは『アリエネークレープ』の力を最大限に引き出し

なおかつ破裂もしないというまさに完璧のクレープ!!!

そのなも、、、『マジヤベークレープ』だ!!!」

クレイジー「なんだ、、、、と、、、、」

ドサ!

アロアロス「よし、つかまえた!!!」

ひきあげるぞ!!!!!!」

なんと、クレイジーが何者かの送り込んだ刺客によって囚われてしまった、、

しかし、まだ、その事実気づくものはいない、、

その頃、逃走者には新たなミッションが送られていた、、

マリオ「ミッションきたか、、」

ドクター「よし読め、ルイージ」

ルイージ「何で僕が読まなきゃいけ」

ドクター「読め!!!!!!」

ルイージ「はい！！！！！」

ドクター「わかればいいんだ、、」

ルイージ「じゃあ、読むよ、、」

ミッション5、、

残り35分までに大観覧車に乗らなかった逃走者は、、

強制失格となる！！！！？？？

ドクター「はあ？それはまた、、わかりやすいミッションだな、、」

デデデ「こんなミッションはじめてみるデ」

ピット「ある意味脅威のミッションだな、、」

ミッション5

残り35分までに大観覧車に乗らなかった逃走者は

何人であれ、強制失格となる。

ネス「説明文短い!!!!!!」

ピチュー「ちょっと!大きな声出さないでよ!!」

そもそも、説明文って何!?

ネス「いや、、なんでもない、、」

スネーク「現在、残り55分だから、、楽勝じゃないか?」

サムス「ゆっくりいけるわね」

ルイージ「最初は驚いたけど、よく考えたら楽勝だね!!」

いやー、よかったよかった、、」

ドクター「、、、、嫌な予感がする！

急ぐぞ、緑ヒゲ！！！！」

ルイージ「よび方、変わった！！！！」

ドクター「俺の考えたとおりならこのミッションにもきつと一癖あるぞ！！」

ルイージ「え？本当？」

残り26人

残り時間54分

ハンター5体

ミッション5(後書き)

??? 「よし、よくやったぞ!!」

褒美をやろう、アロアロス!!!!!!」

アロアロス「ありがたき幸せ!!!!」

??? 「さて、、久しぶりだなクレイジー」

クレイジー「お前は!!!!なぜだ!!!!」

封印されてるはずだろう!!!!」

??? 「ああ、貴様らのせいだな、、、

今は、封印のほこらに偶然やってきた

人間の体に憑依しているのさ。

しかし、この体じゃそうはもたない、、、

さあ、どうすると思う???」

クレイジー「封印を解くつもりか!!!!」

??? 「そのとおりだよ、、、

そのためには、まず俺を封印している2人、、、

創造神マスターハンド

破壊神クレイジーハンド

このどちらかだけでも倒さなければいけなかった。」

クレイジー「く!!!」

「お前をこのまま倒してもいいが、
???」

せつかくだ！

貴様の力をいただき、封印を解くために使わせてもらおう！

!

ピュオオオオオオオオン!!!!!!!!!!!!

クレイジー「ぐわあああああああ……！！！！！！！！！！」

ミッション5の罠(前書き)

残り52分 逃走者は26名

ミッション5の罠

ミッション5が発令されてから3分が経過した。

現在、残っている26名の逃走者全員が大観覧車に向かっている、

ドクター「、、、、よし！

こういうことだろう！！！！」

ルイージ「どうしたの、ドクター？」

ドクター「このミッションの罠がわかったぞ！」

ルイージ「え、本当！？」

ドクター「これを見ろ！！」

ドクターが指をさしたのは、遊園地の案内板の「大観覧車」の項目

ルイージ「、、、、これが、どうかしたの？」

ドクター「ここを見ろ！観覧車の説明文だ！！」

「大観覧車」・・・この遊園地の目玉アトラクションです

しかし、これはただの観覧車ではありません

なんと、世界初の1人乗りゴンドラの観覧車なのです

1人でゆっくりと空の景色をお楽しみください

※ゴンドラは計20台ございます。

ルイージ「、、これが、どうかしたの？」

ドクター「馬鹿か！！」

あの大観覧車は1つのゴンドラにつき定員1名！！

そして、ゴンドラは20台だと書いてあるだろ！！」

ルイージ「それで？」

ドクター「まだわからないのか！！」

現在残っている逃走者は26名!!

観覧車に乗れるのは20名だ!!」

ルイージ「、、、、ということは!!!!!!」

ドクター「先着20名に入れなかった6名は

強制失格になるしかないということだ!!!!!!」

ルイージ「ますます、急がなきゃ!!!!!!」

そう、このミッションはメールには明記されていないが

最大でも20名しかクリアできない

早い者勝ちだ、、、、

ドクター「走りながら、このミッションのいやらしさを説明しよう」

ルイージ「別に説明しなくてもいいけど、、、、」

ドクター「今回のミッションの罠となったのは『時間』だ」

ルイージ「『時間』、、、、？」

ドクター「ミッションが発令したのは残り55分の時、、

強制失格になってしまふのは残り35分だ

さあ、これを聞いてどう思う？」

ルイージ「へ？」

まあ、余裕だなー、と思うけど」

ドクター「なぜだ？」

ルイージ「だって、20分もあれば簡単にクリアできるミッションだし、、」

ドクター「それこそが罠だ」

ルイージ「え？どういうことだよ!!」

ドクター「観覧車に乗るだけという単純なミッションに

20分というあまりに長い制限時間

当然、油断してしまうだろう

無理に体力を使うこともないし、

下手に急いでハンターに見つかったらすべてが終わるかな

だが、しかし、本当は先着20名という限度がある、、

こんないやらしいミッションがあるか？」

ルイージ「、、よくわかったよ」

ドクター「あと観覧車のネーミング、、

これもしやらしい」

ルイージ「『大観覧車』、、

別に普通の名前だけど、、」

ドクター「考えてみる、、

1人しか乗れないゴンドラが20台だけ、、

観覧車としてはむしろ小さいくらいだ

だが、『大観覧車』、、

こんな名前してて、定員20名は反則だぜ」

ルイージ「このミッション作った奴は相当性格悪いんだね、、」

ドクター「ああ」

ドクターはこのミッションが先着20名であることに気がついたよ
うだ、、、

さらに、ドクター以外にもその事実を知るものが2人、、

デデデ「たしか、あの観覧車は定員が20名ぐらいだったはず、、
」

アイク「急がないと、乗れないんじゃないか、、？」

やべえ！！！」

デデデとアイクだ、、

時はさかのぼり、ミッション1の途中、、

大観覧車前のハンターBOXを封印した後のこと、、

デデデ「しかし、、、この観覧車ちっちゃくないか？」

アイク「え？　そういえば、、、

あ、説明書きがあるぞ、、、

えーと、、、

1つのゴンドラにつき定員1名でゴンドラは20個だ

要するに、定員20名」

デデデ「1人乗りとは珍しいが、、、

『大観覧車』というには貧相やな、、、」

アイク「まあな、、、」

このときに二人は観覧車の定員を知ったようだ、、、

そのころ、、、どこかわからぬ場所で、、、

X【ふふふ、、、やはりやるな、、、この男は、、、

私の仕掛けた罠のうち1つを見破った!!】

部下1【1つ、、、？

まだなにかあるのですか、、、？】

X【この男なら、私の罠を見破ると思ったからな、、、

早急に指示を出した】

部下1《・・・やはり恐ろしい人だ、、、》

ルイージ「あ、もう少しだよ!!」

ドクター「そうだな、、、ん？

何だあれは!!!？」

到着した二人が目にしたものは、
、
、
!!!

ミッション5の罠（後書き）

??? 「よし、封印をとく作業に入るぞ!!」

部下 「ラジャー!!!!!!」

エリアに、、、波乱が迫っていた、、、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4392n/>

逃走中in遊園地

2011年12月25日15時50分発行